

2024年度
前期号



- ◆ 世界地図歩き
ベトナムを訪ねて 帝国書院・2
- ◆ 教科書での指導と評価の実践例
「世界の諸地域」の指導と評価の一体化
ー「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点を中心にー 渡邊 智紀・3
- ◆ 社会科学習 トラの巻⑩
ワークシートの作り方・使い方 赤坂 寅夫・6
- ◆ ICTで学びが変わる！
社会科授業におけるデジタル教材
「ぱんSim」の活用と可能性 井上 昌善・9
- ◆ 公民教室 専門家に聞いてみた
今、知りたい！ 金融教育
ーなぜ社会科でお金のことを学ぶの？ー 村上 恵子・12
- ◆ やってみよう！社会科でAL
公民的分野における生徒の切実性を生む
授業展開例ー「対立と合意」「効率と公正」×防災学習で
ALを実現ー 澤田 康介・14

- ◆ 授業研究 地理
世界の諸地域 アジア州
ー産業発展と人口増加が急速に進む南アジアー 井上 弘毅・16
- ◆ 授業研究 歴史
「絹の道」から「持続可能な社会の創り手」
を育成する
ー地域の歴史から学び、未来を切り拓くー 上床 肇・20
- ◆ 授業研究 公民
映画『シン・ゴジラ』をきっかけに考える
立法権と行政権の関係に関する授業 渡辺 裕一・24
- ◆ 史料にみる歴史
農機具の変遷ー「千歯こき」を中心にー 関本 明子・28
- ◆ 社会科ニュース・30





ベトナムを訪ねて

2023年8月、ベトナムを訪ねた。
『中学校社会科地図』とともに当時の風景を振り返る。



←⑤カフェで生卵を加えたエッグコーヒーなどを楽しみ若者たち



↑『中学校社会科地図』p.33

↓『中学校社会科地図』p.35



■コーヒー大国ベトナムの生産者の暮らし

国土が南北に長いベトナム（『中学校社会科地図』（以下、地図帳）p.33）では、その土地の気候に合わせた農業が行われている。一年中温暖な南部では、稲作が盛んで、メコン川流域は米の一大産地となっている（地図帳p.35①、②）。一方、ラオスやカンボジアと国境を接する西側の中部高原では、昼と夜の寒暖差を生かしたコーヒーの栽培が盛んである（地図帳p.35①、写真ア）。ベトナムは、コーヒー豆の輸出量において世界第2位を誇る（2021年）。ベトナムで生産されるコーヒー豆はロブスタ種が主流で、苦みが強く、日本ではインスタントコーヒーや缶コーヒーの原料となることが多い。

今回取材班は、コーヒー豆の主要生産地の一つである中部高原で、少数民族の家族が営む農園を訪れた。取材当時の8月は、11月から2月にかけての収穫時期に向けて、数人のアルバイトを雇いながら、2.8haもある畑（コーヒーの木にして約2,800本）の水やりや木の手入れの真っ最中であった（写真①）。ベトナムのコーヒーサプライチェーンにも、仲介業者が介在することで、農家の取り分が小さいという構造的な問題が存在している。そのため、子どもを高校まで通わせられない家庭もある

という。少しでも生産性や品質を向上させて収益をあげるために、現地のコンサルタント会社によって、指導や機械の貸与などの支援（写真②）が行われている。

■ベトナムの交通事情とこれから

ベトナムの主な交通手段はバイクで、ハノイやホーチミンなど大都市の道路はバイクであふれている（表紙写真）。ベトナムでは、バイクのことを「ホンダ」と呼ぶほど、低燃費で壊れにくいホンダ車の人気が高い。スクーターに乗る人も多く、渋滞をものともせず颯爽と駆け抜けていく。そのため、大通りでは絶え間なくクラクションが鳴り響き、排ガスによる息苦しさを感じる。バイクに乗る人が身に付けているマスクやスカーフは、排ガスから身を守るため、新型コロナウイルス感染症の流行前から使われてきた。近年では、脱炭素化を意識した電動バイク（写真③）や電気自動車も増えている。

渋滞解消のため都市部では新たな鉄道の建設が進められている。ハノイでは2021年に1路線が開業したが、乗り換え路線が未完成のため、渋滞の根本的解消には至っていない。日本企業も参加するホーチミンの地下鉄（写真④中央は駅入口の建物。日本とベトナムの国旗が飾られている）は、今年7月に最初の路線が開業予定である。

写真・動画は帝国書院ウェブサイトでもご覧いただけます。
〈写真：帝国書院 2023年8月撮影〉



「世界の諸地域」の指導と評価の一体化

―「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点を中心に―

東京都 お茶の水女子大学附属中学校 教諭 渡邊 智紀

1. はじめに

本誌では2022年度前期号の石井氏を皮切りに、4氏の指導と評価の一体化に関する理論や実践が紹介されてきた。授業と表裏一体である評価活動をどのように行うべきか、先生方の関心が高いことの証左であろう。私も研修会や学習会などを通して、このことを実感している。

本稿では2学期以降に学校現場で役立てていただくことを念頭に、『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）第2部第2章「世界の諸地域」を事例に、地理的分野の指導（授業）と評価の一体化の工夫について具体的に述べていく。帝国書院の年間指導計画案によると、この内容のまとまりは1年生の2学期から3学期にかけて指導することになっている。『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』でも、内容のまとまりを一つの単元として設定し、評価規準を設定する手順が示されていることから、夏期休業等を利用し、2学期から3学期の長期にわたる単元の授業と評価を一体のものとして計画しておくことが望ましい。見通し（到達点）を定めたうえで授業や評価活動にあたっていけば、生徒の実態等に合わせて絶えず到達点との位置関係を把握しながら修正・調整することが可能になる。生徒に自己調整力を高めることが求められているのと同じように、教師の授業・評価活動にも同様の力が求められているといえる。

2. 育成する3つの資質能力と単元の構成

では、具体的に計画を立てていこう。初めに、単元の学習を終えた時点で生徒にどのような姿になってほしいか、学習指導要領の目標や

学校の教育目標等を参考に想像してみてほしい。ここでは目指す生徒の姿を「地域的特色および地域でみられる地球的課題の成り立ちの要因や影響を、関連付けて多面的に考察、表現でき、理解できているとともに、みずから資料を収集・読解したり表現活動に活用したりするなど、学習への関心を高め主体的に追究しようとしている生徒」としておく*。この姿を表す言葉を入れ込んで、単元の目標および評価規準の文言を作成する。

次に、このような生徒を育てるために、単元（各州）の学習順序をどのように配置すると効果的かを検討する。教科書はアジア州からオセアニア州の順に並んでいるが、当然ながらこのとおりに進める必要はない。地域的特色のつかみやすさや技能（資料の読み取りや表現させる方法）の習熟、地球的課題の背景の複雑さなどの難易度から考えることや、生徒の関心や時事的な社会の動きを踏まえること、あるいはそれらの複数を組み合わせることが考えられる。ここが教師の腕の見せどころである。本稿では、教科書で示されている地域の主題や地球的課題の背景の関連性、生徒の技能の習熟過程等を勘案し、表のような学習順序を構想した。

時数等は帝国書院の年間計画案によった。表

表 州の学習順（案）と教科書の地球的課題
(色分けは単元のまとまりを示す)

	州名	時数	地球的課題	
①	北アメリカ	5	生産と消費	2学期
②	アフリカ	4	食料問題	
③	南アメリカ	4 + 1	熱帯林の破壊	
④	アジア	7	都市・居住問題	3学期
⑤	ヨーロッパ	6	経済格差	
⑥	オセアニア	3 + 1	多文化の共生	

*太字は「知識・技能」、ゴシック体は「思考・判断・表現」、ゴシック斜体は「主体的に学習に取り組む態度（以下、態度）」の3つの資質能力を意識していることを表している。

内で「+1」としているところは、それまでの各州を一つの「まとまり」ととらえ、それぞれの「まとまり」ごとに「**思考・判断・表現**」および「**態度**」の評価資料を集めるための時間をとることを意味している（課題や作業内容については、後述する）。なお、複数の州の学習をまとめて評価する先行研究として、2021年の全国中学校社会科教育研究大会東京大会で発表された、東京都中学校社会科教育研究会（地理専門委員会）の実践も参考にされたい。

3. 単元を見通した評価計画の作成

（１）「知識・技能」

このような学習順序および「まとまり」を基に、具体的な「**評定に用いる評価**」を行う場面を計画する。①～③の州は2学期、④～⑥の州は3学期の評価範囲とする。

「**知識・技能**」については、教科書の「**節の学習を振り返ろう**」の「**①学んだことを確かめよう**」の自己学習結果、および**定期テスト**などを用いて評価資料を収集する。定期テストでは、語句を答えさせるような問題だけではなく、地域的特色に関して説明するような深い知識や、地球的課題の現れ方が地域により異なるといった概念を問うような問題も含めることで、生徒の知識が、記述的知識から説明的知識^{*}へと高まっているかを確認したい。また、時数的に考えるとアジア州の途中で冬休みを挟むことから、①～④の途中までの学習成果を生かして、アジア州でみられる**地球的課題**についてみずから調べ、地図を用いてその広がりや場所を示したり、**課題の現状を示す写真やグラフ等**を用いたりして表現させる課題を出し、その成果物を社会的事象等について調べまとめる「**技能**」の**評定に用いる**。もちろん、この成果物は評価資料としてだけでなく、3学期に行うアジア州の地球的課題を考える授業の資料としても活用することができる。

（２）「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」

「**思考・判断・表現**」と「**態度**」については、州の「まとまり」ごとにあらかじめ考察すべき大テーマを生徒に示しておき、それに対して自

分は学習を通してどのように考えたか（**思考**）、また、学習の工夫や努力ができたか（**態度**）を記述させるワークシートを作成して、「まとまり」の最後の（表で+1と表示した）時間で2観点の**一体的な評価資料**として収集することを想定している。

具体的に追究する大テーマの例を示すと、次のようになる。①～③の「まとまり」では「**私たちが生きるために必要な『食料や資源』の生産や消費に関して、世界ではどのような特色や課題がみられるだろうか。**」といった大テーマを生徒に示し、授業を通して追究することで、北アメリカ、アフリカ、南アメリカ各州の特色や課題の違いを考察することができると考える。同様に④～⑥の「まとまり」では、「**さまざまな立場にある人々が『共にによりよく暮らす』ために、乗り越えなければならない課題や、課題を乗り越えるための工夫はどうあるべきか。**」のような大テーマが考えられる。

このような大テーマを、各「まとまり」の導入の時間で、生徒の追究する意欲や関心を高めながら共有する。そして、大テーマに対する予想や導入の時点での自分の考えを、用意したワークシートに書かせる。そして、「まとまり」の最後の時間に、大テーマに対する考えや自分自身の追究過程の振り返りを書き、それが「**評定に用いる評価**」の資料となることと、その**評価基準**がどうであるかを伝える。評価基準については、大テーマについて複数の州の特色および課題の事例を取り上げ、比較・分類するなど適切に関連付けて多面的に考察、表現できているものをBとし、その考察の程度が高いもの（例えば、全体を統合して概念化しているなど）をAとすることを想定している。

また、あわせて、各州の学習を進めている段階でそれらがどのように変化したり、学習を通して新たな発見があったりしたかなどを、振り返りシートやノートなどの指定された場所に記入する必要があることも、あらかじめ生徒に伝えておく。事前にどのような評価活動をするかについて生徒と情報共有しておくことは評価の信頼性や妥当性を高めるうえで大切なことである。なお、途中の振り返りを記入する回数や場

所（ノートや授業プリント、振り返りシート、ICTの活用など）は、各先生方のやり方があると思われる。それらにひと工夫を加えることで、生徒が適宜、大テーマに対する答えを思考したり、学習を振り返ったりできるような枠組みを作っておきたい。帝国書院「指導書Webサポート」の「学習の見通し・振り返りシート」を利用したり、これを基に自分なりのシート（図）を作ったりすることも考えられる。

学習途中での振り返りは、州の学習が終わった時点などの適切なタイミングで提出させて確認し、アドバイスすることを忘れないようにしたい。注意したいのは、ここで得られた情報はあくまでも「学習改善に用いる評価」として使用するということである。すなわち、ABCをつけることよりも、未提出の生徒にはそのことで声をかけることや、提出した生徒には、提出物の内容や学習状況に関するアドバイスをすることを優先するという意味である。このように、教師から生徒に対して日頃から継続的にアドバイスをする機会を作ることは、教師と生徒が学習の方向性を共有し、評価の信頼性や妥当性を高めることにもつながる。

さらに、生徒の提出物から得られる情報は、教師の授業改善にも大きく役立つ。生徒がテーマに対して考えられていない場合は、教師自身がテーマを意識した授業を構成できているか、資料は適切であるかなどを改めて見直すよい機会となるだろう。教師の働き方も考えながら、生徒へのアドバイスや教師自身の授業改善を進めていきたい。

4. 学習改善に用いる評価の充実とICTの活用

このような「学習改善に用いる評価」を進めるにあたっては、各学校に整備された一人一台端末など、ICTの活用が大変有効である。例えば、Google for EducationのClassroomでは、教師が作成したワークシートを生徒にコピーして配布・共有し、それにコメントをつけることが可能である。このような機能を活用すれば、配布・回収の手間を減らし、オンラインでコメントができるなど、効率的かつ有効な評価活動（情報収集）が可能になる。学校の実態にもよ

学習の見通し・振り返りシート ①
(地理的分野 第2部 第2章 第4節 北アメリカ州)

【大テーマ】「まとまり」を通して考えること
私たちが生きるために必要な『食料や資源』の生産や消費に関して、世界ではどのような特色や課題がみられるだろうか。

第4節の問い 北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の見通し

(1) 「節の問い」について、学んでみたいことや、疑問に思ったことを自分の言葉で表してみよう。

(2) 解決のために、何が分かればよいのか、どのようなことを調べればよいかなど、見通しを立てよう。

学習前の予想・学習後の振り返り

本時の項目と学習課題	学習前の〈予想〉や 学習後の〈振り返り〉	★【大テーマ】に関連する 特色や課題に線を引こう
1. 北アメリカ州の自然環境 北アメリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。		
2. 移民の歴史と多様な民族構成 北アメリカ州に多様な民族が集まったことは、地域にどのような特色をもたらしたのだろうか。		

図 学習の見通し・振り返りシート（筆者作成）

るが、積極的に利用していきたい。

話は戻るが、前述の「技能」の評価に関する課題についても、家庭でICT機器を利用して取り組むことが考えられる。学習指導要領解説の参考資料3「社会的事象等について調べまとめる技能」の中に、情報を収集する技能として「コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める」技能、情報をまとめる技能として「情報機器を用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる」技能が示されている。歴史的分野での指導との兼ね合いも視野に入れながら、系統的な技能の育成やICTの活用力の育成についても考えておきたい。

※森分（1984）は、社会的な事実を概括した知識を記述的知識、2つ以上の記述的知識を因果的に結び付けたり、社会的な法則や理論（一般的説明的知識）を用いて推理したりして生まれた知識を個別的説明的知識と呼んだ。

〈参考文献〉

- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』東洋館出版社、2020年
- ・全国中学校社会科教育研究大会 東京大会当日配布資料「8（地理的分野）地理専門委員会分分野別提案」（最終閲覧日2024年2月26日）
<http://www.zenchusya.com/wp-content/uploads/73da5480bf927cdd3856eedb8624f6fb.pdf>
- ・森分孝治『現代社会科授業理論』明治図書、1984年
- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』東洋館出版社、2018年

帝国書院
年間指導計画は
こちら→



本授業研究の
ワークシートは
こちら→





ワークシートの作り方・使い方

元全国中学校社会科教育研究会会長 赤坂 寅夫



【質問】ワークシートはなぜ作るのか、その意義と作る際のポイントを教えてください。

その一 ワークシートの重要性

かつて昭和の時代には知識偏重型の授業が行われていましたが、令和の時代の授業は生徒が主体であり、重要語句を覚えるのではなく、事象を基にいかに関心・判断し、表現するかが学習活動の中心です。したがってワークシートを活用した学習活動は、地図やグラフ、年表、史料等の教材を読み取り、それを基に関心・判断し、その考えを表現する活動となるでしょう。現行学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が求められており、指導者に対しては学習者の「主体的に関心に取り組む態度」の評価が求められています。また、ワークシートは、学習者が読み取った内容、思考・判断の内容や過程など、学習の過程や成果が記されたものです。指導者はそこから育成しようとした学力がきちんと身に付いているかを見取り、評価します。ワークシートは学習者にとって学習活動の足跡を記したものであり、授業者にとっては評価の重要な対象でもあるため、ワークシートを作成する際には工夫が必要です。

ポイント①



ワークシートは、学習の過程や成果が記されたものであり、評価の対象として工夫が必要

その二 発達段階に応じたワークシートの種類とレベル

中学校社会科の学習は3年間にわたるので、中学校に入学したての1学年1学期と2学年3

学期や3学年とでは学力に大きな違いがあります。3年間の地理・歴史・公民の学習において、どのような知識・技能を身につけさせ、思考・判断・表現の力を向上させるか、スパイラルな指導計画・評価計画を作成しなければなりません。1学年1学期でいきなり深い思考・判断を問うワークシート、2学年3学期や3学年で単なる知識を確認する穴埋め式や資料の読み取りのみを問うワークシートは、発達段階を考慮しない不適切なものといえます。

例えば地理的分野での学習においては、地理的技能や地理的な見方・考え方の発達を考慮すると、おおよそ以下のような段階が考えられます。

- 略図などの作図、雨温図の作成など単純な作業を行う。
- 地図や写真、資料の読み取りを行い、分かったことを記入する。
- 地理的な見方・考え方を働かせながら資料等の読み取りを行う。あるいは地理的事象について自分の考えを記入する。
- 自分の考えをグループや学級全体による討論を基に深める。あるいは再構築する。

2年間の地理的分野の学習の中で学習活動がaからdへと深化し、作業や思考のレベルが高まり、ワークシートに記入される内容も量的質的に高まっていきます。それに伴って、a→b→c→dとスパイラルにワークシートの質を高めることが大切です。a・b・c・dそれぞれの段階のワークシートを独立して作ることも考えられますが、実際は、aとb、bとc、cとdなどと組み合わせたものが多く作られるでしょう。なかでも最も多く作られるのがbとc

を組み合わせたものではないでしょうか。また、思考・判断・表現の能力を育成し、深い学びや協働的な学習を目指す単元では、cとdを組み合わせたワークシートにするなど、単元による工夫も必要です。これらは地理的分野に限らず、歴史・公民の学習にもあてはまります。



ポイント2

発達段階とレベルに合わせたワークシートを作り、スパイラルな成長を目指すこと

その三 資料の読み取りから見方・考え方を働かせるワークシート

社会科では、地図や図版、写真資料、統計グラフ、史料等の読み取りから分かったことを記入し、そのことが見られる理由、背景、制度などを考えさせる学習が多く行われ、そのような学習に対応したワークシートが最も活用されるでしょう。

ここでは、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）の図版を活用した「日本の気候の特色」のワークシートでの学習事例を紹介します。

○学習課題 「日本の気候は、季節や地域によってどのような違いがあるのだろうか。」

○ねらい 季節や地域による気候の違いとその理由を多面的に探る。

① 地図帳p.147「①日本の気候区分」の「アおもな都市の気温と降水量」（図1）で東京と上越（高田）の雨温図を比較し、気付いたこと・分かったことを記入しよう。

※単に気温が高い低い、雨が多い少ないだけでなく、地図帳p.166のおもな都市の気候に関わる統計から年平均気温、年降水量、最高・最低気温、最高・最低降水量に着目させます。具体的データで比較させることが正確に地理的な見方・考え方を働かせるうえで重要です。

② 東京と上越（高田）の季節による違いの理由を地図帳p.148「⑦季節風による天気の違い（冬）」の図から読み取り、地形・季節風の面から考え、記入しよう。

※単に山や季節風という表現ではなく、越後山脈、関東平野、南東の季節風、北西の季節風など、具体的地名や用語で記入させます。

③ 同様に松本と高松の雨温図を比較し、違い

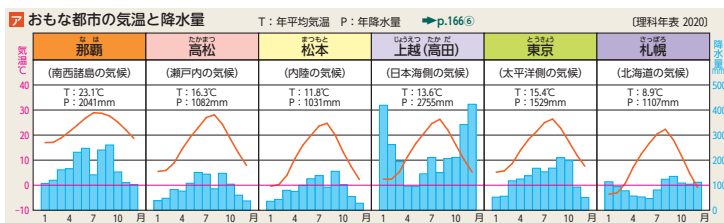


図1 『中学校社会科地図』 p.147

①日本の気候区分 アおもな都市の気温と降水量

と共通点を見だし、その理由を記入しよう。

④ 同様に札幌と那覇の雨温図を比較し、違いと共通点を見だし、その理由を記入しよう。

※海流に着目させ、単に暖流、寒流だけでなく、暖流の黒潮（日本海流）、寒流の親潮（千島海流）といった具体的用語で記入させます。

⑤ これまでの活動で分かったことを記入しよう。

※日本の気候は六つの気候区に区分できること、地形、季節風、海流などの影響を受けて多様な特色を持っていることを理解させましょう。

おもな都市の雨温図を比較し、違いや共通点を探る活動、その理由を地形、季節風、海流等の図を関連させて探る活動、さらにまとめの活動として、六つの気候区に区分できることをワークシートに記入することにより、活動＝思考のプロセスが記録されることとなります。これらが学習者にとっては学習活動の振り返りの材料、指導者にとっては評価の材料となります。



ポイント3

複数の資料の比較・関連から、見方・考え方を働かせる活動に沿ったワークシートになるよう工夫する

その四 見方・考え方を働かせ、考えを深める協働的な学びのためのワークシート

今学校教育では、生徒個々の主体的な学習にとどまらず、生徒相互の協働的な学習による「対話的な学び」「深い学び」が求められています。この「対話的な学び」「深い学び」のために、より多くの仲間と話し合い解釈・意見を交流し、下記のAからDまでの過程を記述するワークシートが必要と考えます（図2、次頁）。

- A 読み取ったことを基にした自分の解釈・意見
- B グループで話し合って得た解釈・意見
- C 学級全体で話し合って得た解釈・意見
- D B・Cの話し合いを受けて再構築した自分の解釈・意見

この活動は話し合いに時間を要することから

1. 次の資料1～3を見て、わかったことをそれぞれ記入しなさい。
2. 資料1～3を関連させてわかったことを記入しなさい。
3. 自分の考えをグループ内で発表し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
4. グループでの意見を学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったことを記入しなさい。
5. グループでの意見、学級全体の話し合いをふまえて、自分の考えを再構築しなさい。

資料1	資料2	資料3
1. わかったこと	1. わかったこと	1. わかったこと
2. 関連させてわかったこと		
3. グループで発表し合い、気づいたこと・わかったこと		
4. 学級全体で話し合い、気づいたこと・わかったこと		
5. 自分の考えの再構築		

図2 トラの巻①で示したワークシートの形式

毎時間・毎単元はできませんが、前述したように生徒の思考のプロセスや学び合いをスパイラルに向上させるために、年間数回、特に2学年後半や3学年ではぜひ実施したいものです。

ワークシートは、前述したように学習活動のプロセスを記したものであり、育成しようとした学力が生徒にきちんと身についているかを評価するためのものでもあります。そのため、ワークシートの評価は丁寧に行いたいものです。評価の観点の例を以下に示します。

①作業…指示に従い正確に作業している。【知識・技能の観点】

②資料の読み取り…資料活用の技能の観点から、資料に示された事実・事象を見方・考え方に基づいてきちんと読み取っている。【知識・技能の観点】

例えば前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、①～④の活動において違いや共通点を正確に読み取っているかどうかを評価します。

③自分の解釈・意見の記入…提示した課題に対してあるいは資料から読み取ったことを基にして、根拠を示して自分の解釈・意見を述べている。【思考・判断・表現の観点】

例えば前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、②～⑤の活動において、違いや共通点の根拠を示し、筋の通った説明をしているかどうかで評価し

ます。

④考えの再構築…他者の意見を踏まえて、自分の解釈・考えを深めているかどうかを評価します。【主体的に学習に取り組む態度の観点】

ワークシートの記入に際して、事前に評価の観点を明示するとともにループリッ的な基準を示すことも生徒の励みとなります。例えば、前述の「日本の気候の特色」を探る活動では、以下の基準が考えられます。

A評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を、図から読み取った地形、季節風、海流などから多面的に、具体的地名や用語を用いて説明している。

B評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を、図から読み取った地形、季節風、海流のうち2つの要素から、あるいは具体的地名や用語は用いず一般名称のみで説明している。

C評価：日本の気候の季節や地域による違いとその理由を1つの要素、あるいは簡単な説明で終えている。

生徒が一生懸命記入したワークシートですから丁寧に読み取るとともに、その成果を生徒に返してあげたいものです。時間がない場合はアンダーラインで、時間があるときは一言二言コメントを付けて返しましょう。

また、社会科のワークシートを3年間保管させ、1学年当初からの記述の変容を生徒みずから読み取らせ、3年間の成長の軌跡を自己評価させるポートフォリオ的な評価をさせることも可能です。

ポイント④



協働的な学び・深い学びに応える評価をすること

学習者にとって活動しやすく学びを深めるワークシートとするためには、問い（課題）の設定や在り方が重要です。これについては次回、事例を示しながら解説する予定です。

※（編集部より）ワークシートについてはトラの巻①でも詳しく解説しています。トラの巻のバックナンバーはこちらからご覧いただけます（無料の会員登録が必要です）。



社会科授業におけるデジタル教材 「ぱんSim」の活用と可能性

愛媛大学 准教授 井上 昌善

1 令和時代における社会科授業とデジタル教材

令和時代の学校教育には、社会の創り手としての資質・能力の育成が求められる^{*1}。教科指導で育成を目指す資質・能力の中核は、「読解力」、「表現力」、「納得解を生み出す力」となる。特に、「納得解を生み出す力」の育成は、自己とは異なる意見を持つ他者の存在があって初めて可能になるといえる。このことを踏まえると、**これからの社会科授業では、自己の社会問題や課題に関する意見を形成したうえで、他者との意見の違いを積極的に受け止め、みんなが納得する解決方法を考える学習活動が重視されることになる。**

デジタル教材は、子どもが問題解決に必要な複数の資料を効率的に検索・収集したり、動画や音声を活用して表現したりする学習活動の推進を可能にする。よって、**デジタル教材を活用した社会科授業では、これまでよりも子どもに抽象度が高い概念を具体的な事例に置き換えて追究させたり、他者との対話や議論のために必要となる意見を形成させたりすることがしやすくなると考えられる。**子どもの「抽象と具体の往還」に基づく思考を促し、自己の意見を形成することができる力を育成することは、前述した資質・能力を育むことにつながる。

以上のことから社会の創り手として必要な資質・能力育成を目指す社会科授業づくりをサポートしてくれるのが、デジタル教材といえる。

2 デジタル教材「ぱんSim」とは？

(1) 「ぱんSim」の概要

「ぱんSim ～パン屋さん経営大作戦～」は、パン屋さんの経営に必要な事柄について判

断をしていく帝国書院で開発中のシミュレーション教材である（帝国書院ウェブサイトにて公開中。裏表紙をご参照ください）。令和3年度版『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）の経済単元のページに掲載されている「パン屋を起業しよう」をベースに開発されたデジタル教材であり、クエスト（「次のステップに進むための課題」）の設定など、子どもの学習意欲を高め主体的に学習に取り組ませることができる工夫が随所に施されている。また、難易度も設定することができる予定であり、子どもの実態に応じて活用することが可能となっている。

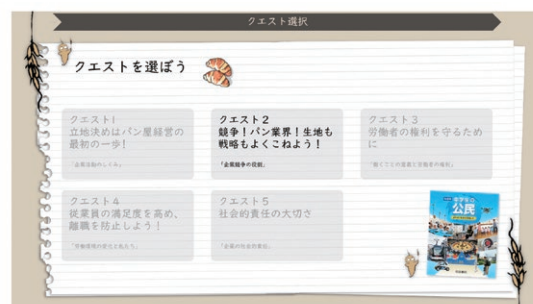


図 帝国書院ウェブサイト Teikoku LABO 「ぱんSim」クエスト画面

(2) 「ぱんSim」開発の目的

著者は教科書編集と「ぱんSim」の監修に携わっているが、開発者に「ずばり『ぱんSim』開発の目的とは？」と質問してみると、「子どもたちが楽しめる教材を作りたい！」、「経済単元で学習する内容と関連付けた教材を作りたい！」という回答であった。

前者について、子どもたちが社会科の授業で知的なおもしろさを感じるのは、学習内容を理解しているかどうかを確認したうえで、自身の判断によって社会を創っているということを実感することができた時であると考えられる。「ぱんSim」は、自己の判断によって生じる結果や社会的な影響を確認しながら、持続可能なパン屋

さんを創ることを目指す体験型のデジタル教材であるため、子どもに社会を創ることのおもしろさを実感させることができる。

後者について、「ぱんSim」では、「持続可能なパン屋の経営の在り方」が教材のテーマとして設定されており、経済単元の内容と関連付けて学習活動を展開できる。これにより、子どもは見通しを持って学習に取り組めるため、学習に対する意味を見出すことが可能となる。

(3) 「ぱんSim」の活用を通して期待できる学習効果

「ぱんSim」の活用によって、次のような学習効果が期待できる。

- ①知識の習得と学習意欲の向上
- ②社会の創り手としての意識形成
- ③公正に判断する力の育成

①について、前述のように教科書の内容と連動したクエストが設定される予定である。これに挑戦しクリアする経験を重ねることによって、**知識の習得とともに学習意欲を高める**ことができる。

②について、経営者として判断したことによって生じる結果をとらえさせることを通じて、**自己の判断が社会に影響を与えることに気付け、社会の創り手としての意識を形成すること**ができる。

③について、「ぱんSim」は、ビジネスやマネジメントのスキルを応用し社会課題の解決と収益の確保を両立させようとするソーシャル・アントレプレナーシップの視点を踏まえた教材である。子どもには、単なる「お金もうけ」ではなく、労働者の権利保障や食品ロスなどの社会問題に対応するための方法を踏まえて持続可能な企業の在り方を判断することが要求される。社会課題の解決と収益の確保を両立させるための方法を考えることによって、**公正に判断する力の育成**が期待できる。

3 深い学びを実現するための指導のポイント

社会科は、社会問題や課題を直接取り扱うことができる教科であり、この教科の特性を踏まえると「社会問題や課題の解決の在り方について公正に判断することができるようになること」を指標として、子どもの知的成長を見取っていく必要がある。つまり、**子どもの社会事象に対する判断に着目した指導と評価の一体化を推進することが重要**になる。

実際の「ぱんSim」を活用した授業を想定すると、子どもがクエストをクリアできたかどうかの確認だけで終わってしまうことが予想される。深い学びを実現するために、教師には子どもの社会的な判断の質を高め精緻化する指導が

表 指導のポイントと指導方法の具体事例 (著者作成)

指導のポイント	指導方法の具体事例（問いの事例） （令和3年度版『社会科 中学生の公民』『パン屋を起業しよう⑥ ～長時間労働を減らしたい！～』（労働者の権利を巡る課題：労働環境の整備）に基づく事例）
I. 現代社会の見方・考え方を働かせる発問を設定すること。 →主に公正、分業などに基づく問いの設定	・あなたは、今いる労働者の中で、誰にどのような役割を担ってもらおうと考えるか。なぜ、そのように判断したか。 ・あなたは、多様な人材を雇用するために、どのような求人情報をどのように発信するか。また、労働者の雇用形態について、どのような形態にしようと考えているか。なぜ、そのように判断したのか。
II. 既習事項や実社会の事象と比較・関連付けて考察させること。 →主に政治単元などの内容との関連付け	・現在の社会では、労働環境の整備を目指してどのような法律や制度が定められているのだろうか。なぜ、育児・介護休業法が成立したのだろうか。成立の経緯や背景に着目して、その意義や目指す社会の姿を探ってみよう。 ・企業では、労働環境の整備を目指してどのような取り組みが行われているのか。なぜ、その企業ではそのような取り組みを行っているのだろうか。きっかけは何か。
III. 自己の判断を振り返らせ、再考させること。 →自己の思考プロセスの振り返り	・どうして今回の「労働環境の整備」をテーマにしたクエストをクリアできたのか（できなかったのか）。クリアの基準はどうなっているか。 ・あなたが提案する課題解決の方法を実行することによって、一定の収益の確保はできるのか。なぜ、そのように判断できるのか。 ・あなたは課題解決の方法を考えるうえで、特に大切だと考えたことは何か。なぜ、そのように判断したのか。 ・ほかの人の考えの中で、「なるほど」と思ったことを記入しよう。それを踏まえて、課題解決の方法について再度考えてみよう。

求められる^{※2}。p.10の表は、筆者が考える「ぱんSim」活用の指導のポイントと具体的な指導方法の事例（教科書「パン屋を起業しよう⑥～長時間労働を減らしたい！～」に基づく問いの事例）をまとめたものである。

表中Ⅰについては、現代社会の見方・考え方を働かせるために、公正や分業などに着目した問いを設定する。例えば、多様な人材を雇用するための方法や雇用の形態について公正や分業の視点から判断させる指導を通じて、**より望ましい労働環境の在り方について公正に判断する力の育成を目指す**。

表中Ⅱについては、主に政治単元で学習した内容や実社会の企業の取り組みなどと比較・関連付けて考察させる場面を設定する。例えば、育児・介護休業法の改正が行われた経緯や社会的背景に着目させ考察を促すことによって、労働者の働き方を巡る問題や環境整備を推進するための方法についての理解を深め、**既存の資本主義に基づく社会のしくみを問い直す重要性に気付かせる**。また、自分自身で考えた課題解決を目指す取り組みと実社会において企業が行っている取り組みとを比較・関連付ける場面を設定することによって、**望ましい労働環境の在り方を判断するための見通しを持たせる**。このように**仮想空間における子どもの判断をリアルな世界と接続させる指導を大切にしたい**。

表中Ⅲについては、自己の判断を振り返らせ、その妥当性について検討させる。例えば、クエストをクリアすることができた理由について問うたり、「社会課題の解決と収益の確保の両立」という観点から自己の意見を振り返らせ、より望ましい課題解決の方法について他者と議論させたりする場面を設定する。このような自己の判断を振り返り、意見を再考させる指導を通じて、**他者と協働することに対する意味付けを促し、自己とは異なる考えを受け入れる姿勢や態度を育むことを目指す**。

デジタル教材の活用によって、個別最適な学び（特に、「学習の個性化」）を充実させることができる。一方で、この学びの成果を協働的な

学びへといかに接続するか、その指導の在り方が問われる^{※3}。表に示したように、**他者との関わりの中で自己の判断を振り返らせることを重視した指導を通して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることができる**。

4 カリキュラム・マネジメントを通じた教科横断的な学びの充実

「ぱんSim」は、カリキュラム・マネジメントを通じた教科横断的な学びを充実させるポテンシャルを秘めている。例えば、売り上げを伸ばすためには、魅力ある商品そのものを開発するだけではなくお店の看板や商品ラベルのデザインも工夫する必要がある。このことに気付かせることによって、子どもは英語や美術を学ぶ意味を見出すようになる。また、文化祭などを活用した学習発表会や職場体験と関連付けて、活用することも効果的である。その際には、学校行事の実施時期と「ぱんSim」活用のタイミングを学年全体で検討するなど、年間のカリキュラムを見通した計画的な指導が必要となることに留意したい。

以上のように「ぱんSim」の活用をカリキュラムに位置付けて、授業を実践することによって、多くの子どもはマーケティングや生産管理などの経営に関連する領域について専門的に学びたいと思うようになる。公民育成を目標とする教科を担当する社会科教師だからこそ、このような教科横断的な学びをカリキュラムベースでデザインできるのではないかと。「ぱんSim」というデジタル教材の可能性を考えることは、社会科教師の魅力やおもしろさを探究することなのである。

〈注〉

※1 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」2021年 p.3

※2 これに関連して、次の拙稿では、現代社会の見方・考え方に基づく社会科授業づくりのポイントとして問題の構造的な理解と判断の精緻化について説明している。拙稿「見方・考え方に基づく問題解決能力育成の切り口のポイント③現代社会の見方・考え方」明治図書『教育科学 社会科教育』778号 2024年 pp.16-17

※3 この点については、次の文献を参照されたい。奈須正裕『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社 2021年

専門家に
聞いてみた

金融教育

—なぜ社会科でお金のことを学ぶの？—



1 金融教育ってなに？

私たちは、働いてお金を得る、お金で商品やサービスを購入する、高額な商品を購入するためにお金を貯める（金融商品を購入する）など、日々、さまざまなかたちでお金と関わっています。購入する商品を選ぶ際に社会や環境への影響を考える人もいるでしょう。これらお金に関わる判断や行動が自分自身の生活、さらには社会や経済活動、環境などに及ぼす影響を理解し、社会全体を俯瞰する広い視野を持って意思決定できる力を身につけるための教育が金融教育です。

2 なぜ今、金融教育が求められているの？

個人のよりよい生活と社会の発展につながるようなお金に関する意思決定ができる力を身につけることを目指す金融教育は、今に限らず、もともとすべての人にとって重要な教育のはずです。その金融教育がなぜ今、これまで以上に求められるようになったのでしょうか。それには、経済や社会の環境の変化が大きく影響しています。以下では四つの環境の変化について見ていきましょう。

第一の変化は、現金を使わず、クレジットカードや電子マネーを用いるキャッシュレス決済が普及したことです。これにより、私たちはお金を使う実感を持つことなく商品等を購入できるようになりました。その結果、お金の価値を実感し、お金と正しく付き合う力を身につける金融教育がより重要視され始めました。

第二は、情報通信技術の発展に伴ってロボアドバイザーや暗号資産などの新たな金融サービスや金融商品が出現したことです。これらの新

しい金融サービス等により私たちの利便性は高まりましたが、その一方で、理解が困難な金融商品等の出現により、私たちが金融トラブルに巻き込まれる可能性も高まりました。その結果、金融サービスや金融商品を正しく理解し、適切に選択できる力を養う金融教育の重要性が高まりました。

第三に、少子高齢化が進み、多くの国民が公的年金を取り巻く状況を不安視し始めたことも、金融教育の重要性を高めています。公的年金の所得代替率（現役世代の手取り収入額と比較した、年金を受け取り始める時点の年金額の割合）のさらなる低下が予測される中、退職後に受け取ることのできる年金額を理解したうえで、退職後の生活に必要な貯蓄額を認識し、長期間かけて計画的に退職後資金を準備する力を養うことは、ますます重要になっています。また、公的年金の上乗せの給付を保障する私的年金の果たす役割も高まりました。私的年金の中には、毎月拠出するお金を自身が様々な金融商品で運用し、運用結果によって退職後に受け取る年金額が変化する「確定拠出年金」と呼ばれる制度があります。この制度を利用するには、多様な金融商品の特徴を理解しなければなりません。確定拠出年金制度は今や多くの企業で導入されていることから、今後、私たちは好むと好まざるとに関わらず金融商品を選択する場面に直面する可能性があります。その結果、早い段階から金融教育を受けることが求められ始めたのです。

第四に、私たちがお金を使ったり、お金を蓄えたりする際に求められる責任が大きくなっていることも、金融教育の重要性を高めました。私たちは今、よりよい社会づくりや自然環境保全なども考慮した、責任ある選択を行うことが求められています。私たちが金融商品を購入し

おすすめサイト

- 金融広報中央委員会 (<https://www.shiruporuto.jp/public/>)
- 日本証券業協会 (<https://www.jsda.or.jp/>)
- 全国銀行協会 (<https://www.zenginkyo.or.jp/>)



金融広報中央委員会



日本証券業協会



全国銀行協会

専門家の先生

県立広島大学 地域創生学部 教授 村上 恵子 先生

博士（経済学）。専門は金融論、大学でパーソナルファイナンス論などを担当。「金融経済教育を推進する研究会（事務局：日本証券業協会）」委員として金融教育の充実・発展に向けて活動中。主な著書に『生活者の金融リテラシー』（朝倉書店、2019年）。



たお金がどのように社会の発展や自然環境保全につながっているのかを考える金融教育は、この点においても重要性が高まっているのです。

3 中学校社会科での金融教育はどう実践する？

金融教育は家計管理、資産形成、金融や経済のしくみ、消費生活、キャリア教育と幅広い内容を扱います。このような金融教育を中学校社会科でどう実践できるでしょうか。『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）のp.131～134は、**金融のしくみと働き**について学ぶページと、**ライフプラン**からお金について考えるページで構成されています。これをもとに、**資産形成を例に金融のしくみを学ぶ方法**を考えてみましょう。

金融教育で大切なのは、生徒に**お金の問題を自分事**としてとらえてもらうことです。そのうえで、なぜ金融を学ぶのかを丁寧に伝えることも重要です。そこで、まずは自身のライフプランと、そのライフプランを実現するために必要なお金について生徒に考えてもらうとよいでしょう。生徒は必要なお金が予想以上に多いことに驚くかもしれません。その驚きがお金の問題を自分事化するのに役立つのです。その後、**必要なお金を賄うためには資産形成（預金や株式などの金融商品の購入）が重要であり、資産形成を行うためには金融について学ぶ必要がある**ことを伝えます。生徒が金融を学ぶ理由を理解できたことを確認したうえで、**金融の必要性やしくみ等について説明**しましょう。

また、社会科では、自分自身のお金の管理という視点に加え、**よりよい社会づくりという広い視点を持ってお金の循環やお金に関する意思決定を考える**ことも重要です。教科書p.134では金融商品の購入がどのようにして社会の発展につながるのかを説明していますが、ここは議

論などを通じて深く理解してほしい部分です。ほかにも、金融経済教育を推進する研究会が2021年に制作した『中学校 公民学習指導案（金融・経済関連）』の第4章、4-5「金融の必要性」では、金融の必要性を多角的に考える教材を提供しています。そこでは、なぜ金融が社会に必要なのかを、企業、株主、一般市民、政府の立場から考えるワークが提示されていますので、そういった教材を利用されてもよいでしょう。

4 むすびに

金融経済教育を推進する研究会が、2022年に、中学校における金融教育の実情に関する調査（「中学校（教員・生徒）における金融経済教育の実態調査」）を実施した結果、中学校社会科教員の約半数（46.9%）が、「（金融経済教育を）教える側の専門知識が不足している」と考えていることが分かりました。現時点では多くの大学の中学校社会科教員の養成課程で金融教育に関連する科目が必修ではないため、これは当然といえます。こうした状況を受け、金融広報中央委員会や金融業界団体は金融教育教材を作成し、教育実践事例を提示しています。先に紹介したような学習指導要領に沿った学習指導案も提供されていますので、金融教育を行うことに難しさを感じている先生は、まずはこういった学習指導案を活用してみるのもよいでしょう。また、これらの団体の中には学習指導案だけでなく、関連する動画を提供しているところもあります。

昨今、若い人たちの資産形成への関心が高まっているといわれています。中学生の皆さんには、**社会科の授業を通じて、自身のことだけでなく、よりよい社会づくりも意識した資産形成について学んでほしい**と考えます。

公民的分野における生徒の切実性を生む授業展開例

—「対立と合意」「効率と公正」×防災学習でALを実現—

北海道教育大学附属釧路義務教育学校 後期課程 教諭 澤田 康介

1 はじめに

『社会科 中学生の公民』第1部第2章「現代社会をとらえる枠組み」の単元で主に取り上げられる事例は「ごみ置き場の掃除規則は変えられるか」「部活動での体育館の割り振りをどうするか」など、子どもたちにとって身近で話しやすい内容だと考えます。また、「対立と合意」「効率と公正」という概念は子どもたちにとって難しい言葉かもしれませんが、自然に意識していることもあります。例えば部活動の代表者会議において、どの部活動が週何回体育館を使用するのかを話し合う際に、どの部活動もなるべく均等に使えるようにするという考え方は、「効率と公正」の概念につながっています。

本稿では、「現代社会をとらえる枠組み」単元の実践例を提案します。具体的な事例をもとに、子どもたちの経験も踏まえながら「ルールづくりにどのような人たちが関わって決めているのか（手続きの公正さ）」「立場が変わってもその決定が受け入れられるか（機会や結果の公正さ）」「その決定にむだはないか（効率）」などの概念をとらえることを目指します。

2 授業の構成・展開

本単元では実社会で起こる具体的な場面や事例を取り上げるため、多くの子どもにとって自分の経験に引き付けて考え、身近に感じるすることができます。しかし、唐突に事例を与えたとしても子どもたちが自分事として考えることは難しいでしょう。そこで本実践では、子どもたちの切実性を生み、主体的に「どうすればよいか」を考えられるように工夫しました。

【活動1】実社会で発生した災害・想定される災害を共有することで切実性を生む

「共通点は何でしょうか？」と問いかけ、この授業を始めます。まず、毛布・アルミマット・ビスケット（乾パン）・アルファ米の順に4つの教材を提示します。提示すると同時に、子どもたちに共通点を予想させていきます。毛布やアルミマットを提示した段階ではキャンプ用品などの発言も出るかと思いますが、乾パンの時点で鋭い子は防災と関連していることに気付くかもしれません。

この4つの教材はすべて「防災備蓄倉庫」に入っている物だと伝えたくて、実際に起きた災害について触れていきます。過去に起きた大きな災害として2011年の東日本大震災、そして2024年に起きた能登半島地震は復興に向けた動きが始まったばかりです。災害は発生時のみ、私たちの生活に影響を与えるわけではありません。これまでも大災害と呼ばれる災害では、長期的にライフラインが途絶えたこともあります。こうした地震などによる被害想定について共有することで子どもたちの切実性を生み、図1の資料への足がかりにしていきます。

【活動2】「どこに防災備蓄倉庫を設置したらよいか？」をもとに、よりよいきまりを考える

活動1を通して、子どもたちは防災備蓄倉庫の役割や重要性について理解を深めたと思います。そこで、活動2では、防災備蓄倉庫の新設を考えていきます。図1を提示したうえで、以下のような条件と各地区の状況を確認します(表1)。

この地域では、人口の増加に伴い、防災備蓄倉庫を1つ新設することになりました。候補地は⑦～⑪で、どの地区も新設を希望しています。

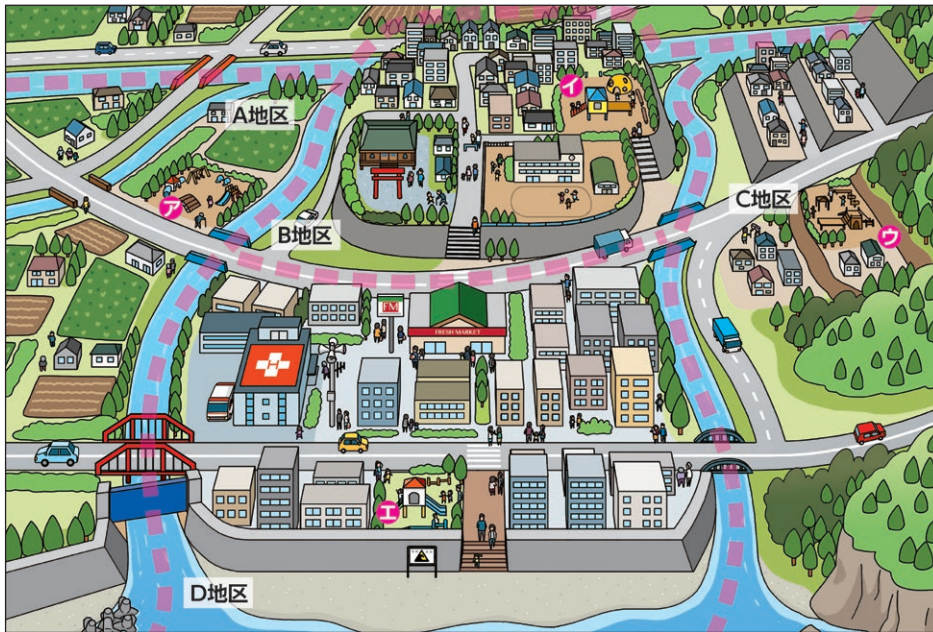


図1 防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう
『社会科 中学生の公民』 p.17

表1 各地区の状況（『社会科 中学生の公民』 p.17¹²の情報を踏まえて作成）

地区	現在の数	特徴
A地区	2	農地が多く、昔から住んでいる人が多い。高齢者の割合が高い。
B地区	4	一戸建ての多い住宅地。学校がある。地盤の固い高台にある。
C地区	1	まだまだ住宅開発が進む新興の住宅地。
D地区	3	マンションが多い。A～D地区で最も人口が多い。低い土地にある。

まず、自分だったらア～エのどこに防災備蓄倉庫を新設するか記述する時間を確保したうえで、互いの考えを話し合う場面を設けます。この条件の下では、社会的弱者にあたる高齢者の多いA地区を優先すると、人口の多いD地区の人たちにとって不都合が生じるようになっていきます。しかし、互いに意見を述べただけでは、「対立」している現状に気付けなかったり、複数の立場から考えたりできないことがあるため、単元のねらいを十分に達成できないことも予想されます。そこで、互いの考えを話し合う活動を行ったのちに、実際に防災備蓄倉庫を設置した例を取り上げます。校区や子どもたちが住むまちに防災備蓄倉庫が設置されている場合には、子どもたちはより身近に感じられます。こうした実例を通して「どのような場所に置いているのか?」「なぜその場所に置いているのか?」について考えることで、「効率と公正」などの本単元における見方や考え方を明らかにしてい

きます。

【活動3】「効率と公正」という見方・考え方をもとに再考する

活動3では、活動2で獲得した「効率と公正」という見方・考え方を働かせて、再び話し合う場面を設定します。「効率と公正」の視点を踏まえることに

より、前述した人口の側面のみならず、海岸沿いでの津波の危険性について考えるなど、地理的分野で学習した内容も踏まえて、より多面的・多角的な視点から合意に近づくために自分の考えを見つめ直すことができます。

3 おわりに

本単元で考える「対立と合意」は実社会においても重要な概念であり、子どもたちの生活にも身近な題材です。しかし、実社会では合意までにとっても長い時間がかかるケースもあり、合意することは身近でありつつも難しいものです。そのため、合意を前提としないことが大切です。合意を前提に話し合いを進めていくと、そこに至るまでのプロセスが充実せず、ジレンマを乗り越えるためにどうすればよいかについて考えることが難しくなってしまいます。

本実践では、教師側で子どもの立場を設定していませんが、A～D地区の代表者を決めてロールプレイング形式で話し合いを進める方法も有効です。子どもたち一人一人がじっくりと教材と向き合うなかで、悩み葛藤しながらも合意を導こうとする姿を引き出せるような展開を目指すことが大切です。

〈参考文献〉

- ・ 草原和博・川口広美編著 『学びの意味を追究した中学校公民の単元デザイン』 明治図書、2021
- ・ 橋本康弘編著 『中学公民 生徒が夢中になる! アクティブ・ラーニング&導入ネタ80』 明治図書、2016



地理

世界の諸地域 アジア州 ―産業発展と人口増加が急速に進む南アジア―

神奈川県 横浜市立金沢中学校 主幹教諭 井上 弘毅

1 はじめに

2023年、インドの人口が中国を上回り世界第1位となった可能性が大きいという報道があり、大きな話題を呼んだ。当初の予想よりも数年早く世界最多となったこともあり、人口14億人を超えるインドに改めて世界の注目が集まったニュースであった。

近年、経済成長の著しいアジアの国として、中国と並び国際的に存在感を示しているインドであるが、特別な理由がなければ、中学校1年生がインドについて持つ知識は、隣国の中国についての知識に比べて圧倒的に少ない。そして、この傾向は、社会科を担当する私自身も同様であった。そこで本稿では、アジア州の学習において、特に南アジアに位置するインドにスポットを当て、地図帳の統計資料や主題図を活用しながら、生徒とともにインドについて学んだ授業事例を報告したい。

南アジアの学習を始めるにあたって、最初に「インドといえば？」と聞いたところ、生徒からはやはり「人口世界第1位」という声があがる。ほかには、「カレー」「ヨガ」「ガンジー」などインドを代表する文化や偉人などがあげられた。

2 導入 インドは世界で第何位？

「次の農産物や鉱産資源は、インドでの生産量が世界でトップクラスのものです。さて、それぞれ何位にランクインするでしょう？」

授業の導入で、インドで生産される農産物や鉱産資源が世界で第何位か、予想させるクイズを行った。あくまでも導入での予想なので、あまり多くの時間はかけず、地図帳を開かせずに簡単に予想させた。

クイズに登場させた農産物や鉱産資源は次のとおりである。

米・茶・小麦・じゃがいも・バナナ・さとうきび・綿花・鉄鉱石・石炭・ボーキサイト

答え合わせには、『中学校社会科地図』（以下、地図帳）p.170の帯グラフを示した（図1）。すると、「インドの紅茶は有名！」「ナンでカレーを食べるのはウマイ」「バナナはインドが1位なの！？フィリピンが1位だと思っていた」など生活経験に基づいた楽しい声が聞こえてくる。地理的分野では生徒の生活経験と学習内容が結び付いたときに、学習により前向きになると感じる。さらに、農産物の統計資料を見ることは、その地域の気候をおおまかにとらえるのに大変有効といえる。先のバナナが世界第1位の発言をした生徒は、「さとうきびもたくさん作って

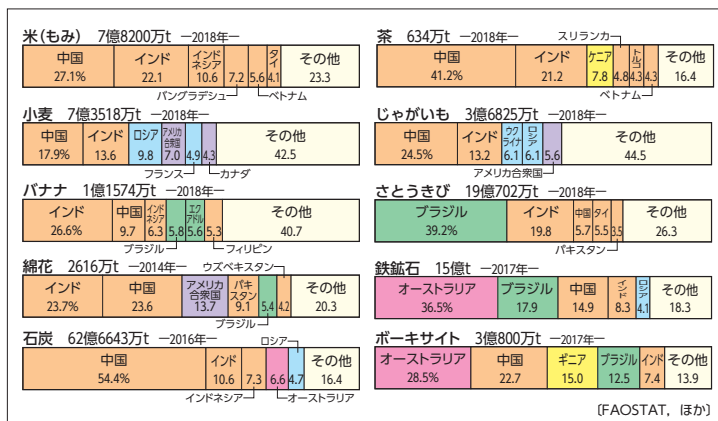


図1 『中学校社会科地図』p.170「世界のおもな農林水産物・食料品、鉱産資源の生産」（一部抜粋）

いる！」と発言していた。この発言から、インドには熱帯に属する地域があることを農産物から理解できたと推察できる。

また、インドの綿花生産が世界でトップクラスであることも本授業でしっかり確認をしておきたい。南アジアの繊維産業は、地理的分野のみならず、歴史的分野・公民的分野の学習においても重要なポイントとなるからである。

3 主題図を読み取る

図1の帯グラフを見ると、インドが中国と肩を並べるアジアの農業大国であることが読み取れる。生徒からは、「インドも中国も、14億人の国民を養うためには、農産物をたくさん作らないと！」という声があがった。そこで、巨大な人口を抱えるインドの農業について、どの地域で何が生産されているか、地図帳p.39の二つの主題図を読み取らせた(図2・3)。

二つの主題図を読み取らせる際には、ワークシートに掲載した白地図※を活用した(ワークシートは本誌p.19のQRコードのリンク先参照)。生徒に示した学習課題は、「二つの主題図にある情報を一つの白地図にまとめて、気付いたことを書きなさい」というものである。その際、必ず記入するように指示をしたのは、米・小麦・綿花・年降水量1000mmの項目である。

白地図の記入を終えた生徒は、気付いたこととして「綿花は年降水量が1000mm未満の乾燥地帯で栽培が盛ん」「米はガンジス川の近くや年降水量が1000mmを超えるとこで作られている」「小麦は北西部で作られていて綿花の栽培地域と重なるところもある」など、南アジアの農業地域の特徴を降水量との関係から読み解いていた。

さらに、先ほどの生徒は図2・3以外の主題図も見て、次のように記述した。

※白地図は帝国書院ウェブサイトより利用できる。



図2 『中学校社会科地図』 p.39 「①南アジアの農業」

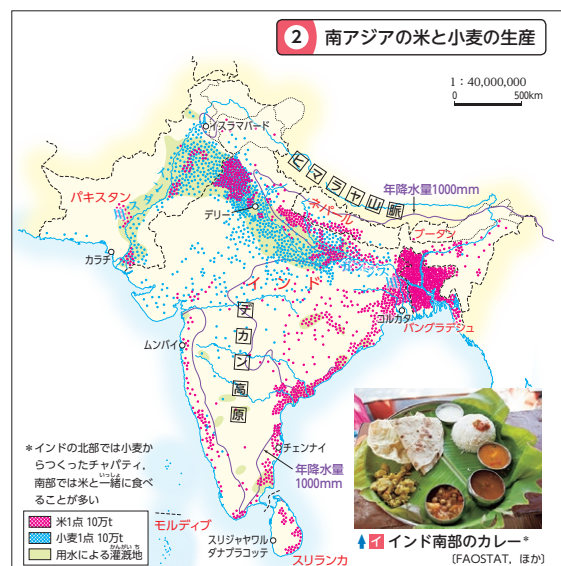


図3 『中学校社会科地図』 p.39 「②南アジアの米と小麦の生産」

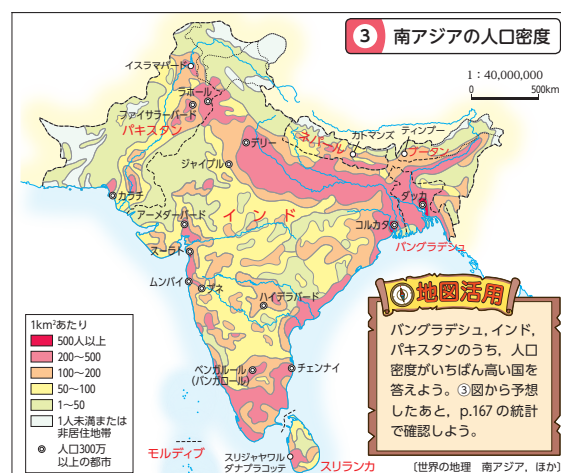


図4 『中学校社会科地図』 p.39 「③南アジアの人口密度」

地図帳p.39の主題図「③南アジアの人口密度」(図4)も併せてみると、14億人も人口のいるインドは、図3で年降水量の多い地域は人口密度の色が赤く

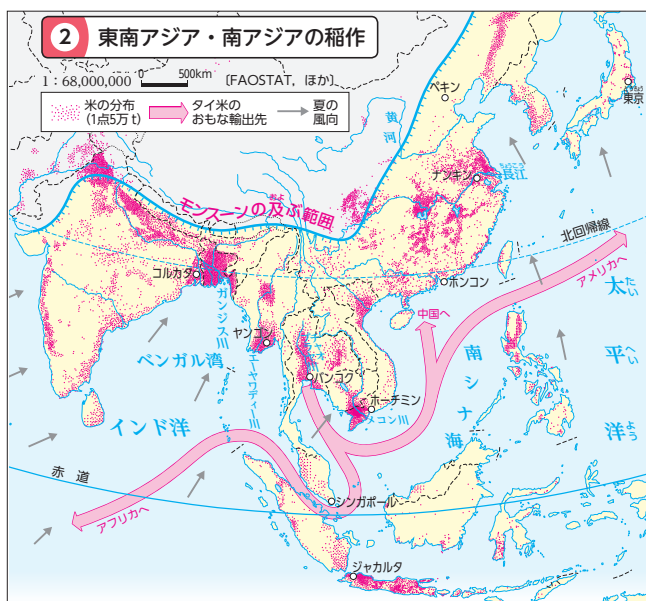


図5 『中学校社会科地図』p.35「②東南アジア・南アジアの稲作」

正式国名	人口 (万人) 2018年
インド	129,804
インドネシア共和国	26,416
中華人民共和国	①142,443
日本国	②12,744
バングラデシュ人民共和国	16,460
フィリピン共和国	10,659
ベトナム社会主義共和国	9,466

図6 『中学校社会科地図』p.167「世界の統計(1)」
(一部抜粋して作成)

なっていて人が多く住んでいることが分かるけれど、そうでないところは黄色や黄緑色になっている。インドでも、乾燥地帯はそんなに人が多くないのでは？と思う。

なかには、地図帳p.35「②東南アジア・南アジアの稲作」(図5)の主題図と地図帳p.167「世界の統計(1)」(図6)を参照して、次のような記述をした生徒もいた。

アジアでは、「モンスーンの及ぶ範囲」の中で稲作が行われている(図5)。その場所では、お米をよく食べているけれど、アジアの中で人口が多い国(1億人以上)(図6)は、大体この範囲の中にある！？

生徒が地図帳の主題図や統計資料を読み取ることによって、アジア州における人口の多い国々の共通性に気付いた大変鋭い記述である。

4 南アジア 学習のまとめ

主題図や統計資料の読み取りを行ったうえで、南アジアの学習のまとめとして、近年経済成長が著しいインドの産業について、次のようなレポートの作成に取り組んだ。

- インドでは、なぜ急速な経済成長ができたのだろうか？
- 経済成長の結果、インドにはどのような変化が起きているのだろうか？

『社会科 中学生の地理』には、急成長した情報通信技術(ICT)関連産業の資料が載っていることもあり(図7・8)、生徒の記述には、ICT関連産業の隆盛がインド経済の成長を支えたというような内容が多く見られた。次に実際に、生徒が作成したレポートの事例を紹介したい。

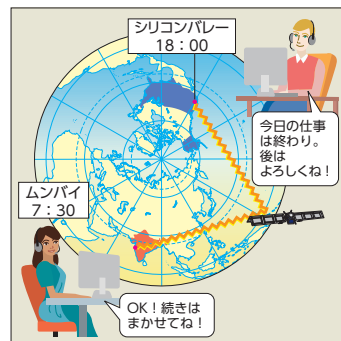


図7 『社会科 中学生の地理』p.61「[4]時差を利用したアメリカ合衆国とインドとの仕事のやり取り」

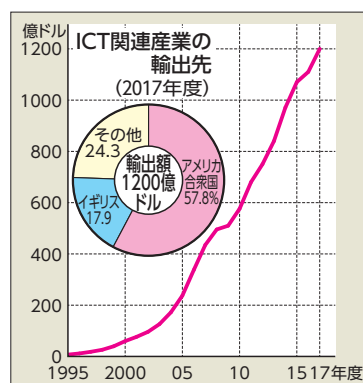


図8 『社会科 中学生の地理』p.61「[6]インドのICT関連産業の輸出額の推移と輸出先」

5 作成レポートの事例

ある生徒は、経済成長の一方でインドが抱える課題に着目して次のように記述した。

インドが急速に経済成長できたのは、ICT関連産業に力を入れたからだと思う。アメリカと時差が約半日ずれていること（図7）や、英語を話せる人が多いこと、カーストの影響をあまり受けないこと、国や州がエンジニアを育てる教育機関をたくさん作ったから成功できたと思う。

経済成長して、インドは人口も増えているし、生活が豊かになった人もいるけれど、貧困層を減らす取り組みが行われているように（写真）、農村の方は、貧しい人々もいて、大きな経済格差があるようだ。



写真 『社会科 中学生の地理』 p.61 「9読み書きを習う農村部の女性たち」

また、これまでに活用した主題図や統計資料を振り返りながら、次のようなレポートを書いた生徒もいた。

インドは、もともと鉱産資源も豊富で、人口も多かったと思う。だから、もともと経済が発展するパワーがあったのではないかな。まだ国が貧しかったころには、最初に農業を盛んにして、食料を増やして、人口が多くなってから、最近になってスマートフォンやパソコンなどの産業に力を入れて成功したのだと思う。でも人口が多いから、農業は今でも結構力を入れていると思う。

ICT関連産業の成功で、インド全体は豊かになったように見えるけれど、人口の多い都市部は人がいっぱい集まっているけれど、農村は人が少なくて貧しい人もいると思う。多分降水量が少ないところは、生活が厳しいのではないかと考えた。

これらのレポートは、ICT関連産業を主力としたインドの経済成長の特徴や、人口増加と食料

生産の関係、経済成長の結果としての貧富の差の拡大などに言及している点が高く評価できる。

6 評価について

評価については、「白地図の記入」と「学習のまとめのレポート」を主に評定に用いる評価資料として取り扱った。白地図の課題では「知識・技能」、まとめのレポートでは、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価を行った。「知識・技能」については、インドの産業の特色やインドが抱える課題を理解しているかどうか、「思考・判断・表現」については、インドの経済発展とそれに伴う影響を多面的・多角的に考察し、表現しているかどうか、という評価規準とした。

「主体的に学習に取り組む態度」については、「レポートを終えて、新たに浮かんだ疑問」の記述をさせた。学習のまとめに生まれてくる新たな疑問が、生徒をさらに深い学びへ前進させると考えたからである。

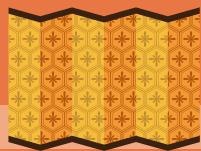
最後に、生徒の記述を紹介して終わりたい。サービス業を主体として経済成長したインドの特色や、経済成長と人口の増減に言及した鋭い疑問といえる。

インドがICT関連産業に力を入れて、経済成長に成功したのは分かったけれど、スマホやパソコンにインドで作られたモノは、あまり見たことがない。やはり、中国で作られたモノが多い気がするけれど、それがなぜだか分らなかった。

日本は人口が減って大変だというけれど、インドはその反対で人口が増えて大変になっている。人口が減って困るところもあれば、人口が増えすぎて困るところもあり、何でそんなことが起きるのか疑問だった。

帝国書院のWebサイトに、
ワークシートを掲載いたします。





歴史

「絹の道」から「持続可能な社会の創り手」を育成する —地域の歴史から学び、未来を切り拓く—

東京都 八王子市立みなみ野中学校 主幹教諭 上床 肇

1 はじめに

文部科学省は教育振興基本計画（2023）において、現代は将来の予測が困難な「VUCA^{※1}」の時代であるとし、このような危機に対応する強靱さ（レジリエンス）を備えた社会をいかに構築していくかという観点から、これからの重要な課題であると示した。社会科の歴史的分野において、いかにVUCA時代を生きる力を子どもたちに身に付けさせることができるか。本授業では、身近な地域の学習教材を活用し、史実から時代の変化をとらえ、未来を切り拓く力を育成したい。そして、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す。

具体的には、八王子市の中学校において『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）のp.200～201「『絹の道』と日本の製糸業～幕末八王子の生糸産業から近代日本の製糸業へ～」を活用した授業実践を想定する。同一課題で行った筆者の過去の実践の様子も紹介したい。

2 地域教材活用によるパフォーマンス課題

授業計画においては、はじめに表1のようなパフォーマンス課題を設定し、グループ活動を含め、生徒の興味・関心を高めるよう工夫した（表2）。

本授業実践は、「身近な地域」である八王子市の地域学習を基に、過去から学び、当該時代において持続可能な商業・産業形態を主体的に追究する。中学校学習指導要領第2章第2節社会第2 歴史的分野 2 内容C（1）「近代の日本

表1 生徒に提示したパフォーマンス課題

やりみず
罫水商人を救え！

あなたはタイムマシンに乗って、明治初期の罫水（現在の八王子市罫水）にたどりつきました。そこでは罫水商人が活躍していましたが、1877（明治10）年頃より、ある理由によって没落します。さて、あなたたちチームに課されたのは、罫水商人の救済です。史実に基づいた知識とみんなの創造力で、罫水商人を救え！

※（当時の人にとっての）未来から物などを持ち込むことはしません。同時代のアイデアで課題解決しましょう。

と世界」の中項目「ア（イ）明治維新と近代国家の形成」、中項目「ア（エ）近代産業の発展と近代文化の形成」に関連付けることができる。開国により、生糸の仲買をし、横浜への積み出しで活躍した八王子罫水の生糸商人である「罫水商人」が繁栄したが、相場の見誤りや鉄道等の普及など近代産業の発展により没落していくことをとらえさせたい。また、罫水商人の救済方法を考えるため、表2の一連の学習活動は、学習指導要領の「課題把握」、「課題追究」、「課題解決」につながる。特に、「社会的な見方・考え方」を働かせ、解決に向けて「構想（選択・判断）」し、それを説明する力を養いたい。

本授業実践では罫水商人を扱うため、生徒は生糸について考えることとなる。生糸は明治以降の日本の輸出業を支えた品の一つである。

具体的には、17世紀に生糸は輸入品であったが（教科書p.114、p.116）、その後、全国に流通するようになった絹織物に着目した商人が、工場制手工業を始めたことが示されており（教科書p.162）、さらには、明治時代以降は輸出用生糸の生産が盛んになり、富岡製糸場が開設され、1909年には日本の生糸輸出量が世界第一位となっていく（教科書p.168、p.177、p.201

表2 授業計画概要

時	○学習目標 ■主となる問い	主として扱う内容と活動
第1時	【課題把握】 ○課題把握をし、問いを立てる。 問いの例： ■「鑓水商人とは？」など	<ul style="list-style-type: none"> ウェブツールによる事前アンケートに答える。 課題把握をし、学習に対する問いを立てる。 次時のための役割分担をする。 【家庭学習】 <ul style="list-style-type: none"> 反転学習を通して次時の学習を深化する。 使用教材：DVD『八王子絹の道』（約12分）と『わがまち八王子』、教科書p.201～202 など。
第2時	【課題追究】 ○ジグソー法で効率的、協働的に知識を習得し、課題を追究する。 ■「生糸で成功した事例・人物は？」など	<ul style="list-style-type: none"> ジグソー法を活用し、前時で立てた「問い」を基にエキスパートグループで知識、情報を整理する。 学校図書館にて作業を行い、図書資料およびウェブ資料を活用する。 ホームグループにて、エキスパートグループで集めた情報を共有し、鑓水商人の救済策を追究する。
第3時	【課題追究】 ○プレゼンテーション資料を作成する。 ■「鑓水商人を救済するには？」など	<ul style="list-style-type: none"> 前時の情報を基に、鑓水商人の救済策を追究し、次時のための簡略なプレゼンテーション資料を作成する（タブレット等を基本とし、紙や現物も可とする）。 学校図書館にて作業を行い、図書資料およびウェブ資料を活用する。
第4時	【課題解決】 ○発表により自らの考えを表現し、他者の発表を評価することを通して、多面的・多角的に理解を深める。 ■「授業を終えて学んだことは？」	<ul style="list-style-type: none"> ポスターセッション形式によるプレゼンテーションを実施し、自分の発表時以外は他グループの評価を行う。 振り返りを行う。

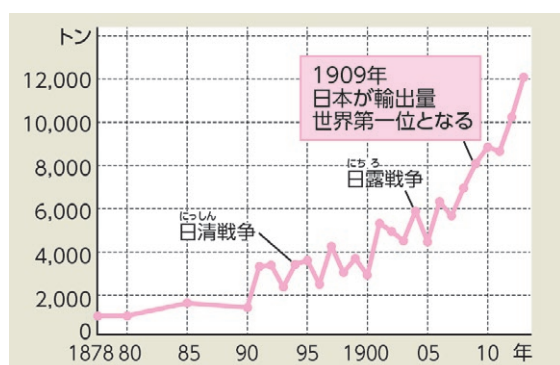


図1 『社会科 中学生の歴史』 p.201
「日本の生糸の輸出量の推移」（『日本貿易精覧』）

など。図1）。教科書p.201「9 鉄道と生糸の輸出」の地図より生糸と関わりが深い都市と八王子の位置関係を確認したり、『中学校社会科地図』p.126「②江戸」を見せながら、台場の

木材には鑓水から運ばれたものが多く使用されたことなどを説明したりする。

鑓水商人について考える本授業実践の一連の学習活動を通して、八王子市という身近な地域と日本、世界とのつながりやさまざまな時代背景をとらえる学習活動となる。時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、「歴史を学ぶ」学習のみならず、「歴史から学ぶ」学習を生徒に体感させ、パフォーマンス課題を通して、変化する時代を生きる力を育成したい。

なお、指導と評価の一体化を意識して、三つの観点で評価ルーブリックを作成した（図2）。「知識・技能」の観点では、時代背景をとらえ、史実に基づくこと、「思考・判断・表現」の観点では、他事例や他者の意見を考慮し、多面的・多角的に考察・表現すること、「主体的に学習に取り組む態度」の観点では、明治時代以降に持続可能な商業・産業形態についてまとめようとしていることを要件とした。3観点に基づく学習活動のループから鑓水商人の救済策を探究し、その結果を、変化の激しい時代を生きる力へとつなげていこうとするものである。第1時で生徒に提示し、主に振り返りシートを活用し、評価を行った。

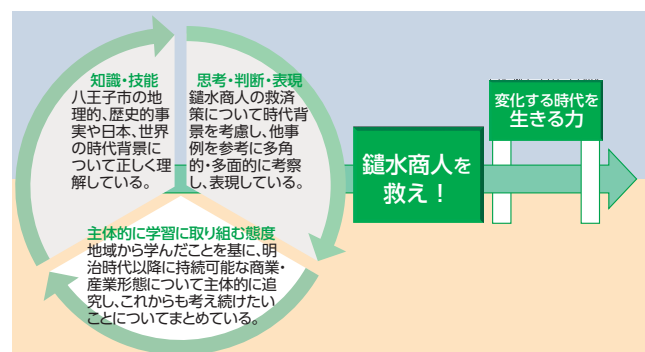


図2 授業構想と評価ルーブリック概念図

本校生徒にとって、八王子市鑓水は学校から約4kmと比較的近距离に位置するため、その地名を知る者は多い。ところが、前述したパフォーマンス課題提示後、アンケート調査（Google Forms使用）を実施すると、表3のような結果となった。

表3 事前アンケート調査結果

質問文	回答項目	人数	%
鑓水商人とは何ですか。	知っていて、説明できる	1	0.6
	知っているが、詳しい説明はできない	9	5.7
	知らない	148	93.7
八王子市は「桑都」と呼ばれているのを知っていますか。	知っていて、説明できる	39	24.7
	知っているが、詳しい説明はできない	82	51.9
	知らない	37	23.4

3

「問い」を立てさせる
「個別最適な学び」

ここで、生徒に「問い」をみずから立てさせる（Google Forms使用）。主に、表4のような問いを生徒各自が立てた。

表4 生徒が立てた「問い」の例

- ・「鑓水商人とは？」
- ・「なぜ八王子は桑都とよばれたのだろうか？」
- ・「鑓水商人はなぜ没落したのだろうか？」
- ・「同時代で生糸を扱い成功した人は、何をしたのだろうか？」
- ・「どうしたら鑓水商人を救済できるだろうか？」など

また、この「問い」に対してどのような回答が考えられるか、予想をさせた。「学びの予測」をさせることは、「主体的に学習に取り組む態度」を見取るうえでも有効である。これらの活動により、生徒一人一人の学習の必要感を高揚させ、個別最適な学びを実現させる。また、生徒たちが立てたこれらの「問い」を学習ツールにて共有して主となる四つの「問い」に集約し、ジグソー法におけるエキスパートグループでどの問いを担当するかは生徒自身に決めさせることとした。

4

反転授業による「主体的・対話的で深い学び」を実現するための時間確保

限られた授業時数の中でパフォーマンス課題を解決するための時間確保は、教師にとって苦勞する点の一つである。そのため、本授業実践においては、反転授業（反転学習）の形式を一部に取り入れ、一定の知識は習得させつつも、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための時間確保を図った。なお、反転授業とは「説

明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」^{※2}である。

ここでは具体的に、市教委制作のDVD『八王子絹の道』（約12分）と副読本『わがまち八王子』、教科書p.201～202を中心に生糸や産業、商業に関わる箇所、ウェブ検索、絹の道資料館等の諸施設の紹介により、家庭において事前に学習を進めることを推奨した。ここで、強制はせず、あくまでも主体性に基づく学びを担保できるようにした。第2時のジグソー法によるエキスパートグループでの活動の際に、知識を他生徒に伝えたいという者も散見され、情報収集および共有は主体的に行われた。

5

ジグソー法、ポスターセッションによる「協働的な学び」

第2時において、ジグソー法を取り入れ、生徒が協働的な学びを通して、多面的・多角的に情報を習得し、それらを有機的に結び付けながら理解を深める学習過程とした。具体的なグループ活動は以下のとおりである（図3）。

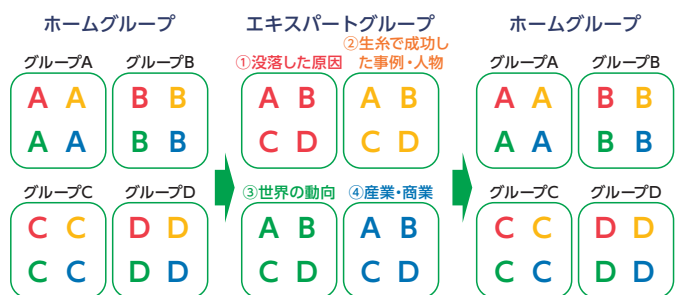


図3 本実践におけるジグソー法の具体例の構造図

生徒が立てた「問い」を参考に作成したエキスパートグループでの調べ学習を、学校図書館にて実践した。実践時、エキスパートグループにおける具体的な「問い」は、①没落した原因、②生糸で成功した事例・人物、③世界の動向、④産業・商業であった。指導側の準備としては、事前に司書の方に相談し、関連資料のコーナーを設置し、学習の効率化を図った。また、エキスパートグループの「問い」に応じて、教師が意図的・計画的に準備した資料も配付した。例

表5 人物紹介資料の一部

大塚卯十郎	鑓水出身。養蚕製糸業、組合製糸漸進社を組織。南津電気鉄道（株）創立するも途中で解散。
原善三郎	横浜商人。生糸で財を成した実業家、政治家。
豊田喜一郎	トヨタ自動車（株）創業者。父佐吉の会社地盤を引き継ぎ、自動織機（綿織物）の動力を自動車に応用した。

えば、②のグループのデスクには、表5のような人物を紹介する資料を配付した。なお、思考の集約および共有化はJamboardを使用し、効率化を図った。

第4時において、ポスターセッション形式のプレゼンテーションで、鑓水商人の救済方法について生徒に発表させた。ホームグループは4名を基本としていたため、2名が発表、他2名が他グループを見学する形式とした。2分の発表を8回繰り返し、見たいグループを自己決定できる「個別最適な学び」（学習の個性化）の視点を大切に、他グループの評価を通して多面的・多角的な視点を獲得できるよう促した。

多くのホームグループにおいて、鑓水商人が没落した理由をとらえたうえで、同時代で成功した商業・産業との比較を通して課題解決の方法を提案することができた。具体的には、原善三郎や岩崎弥太郎等から着想し、正確な相場の把握や語学力の獲得による海外との直接のやり取りなど、商社のような業態を提案したり、鉄道業などに着目したり、八王子織物染色講習所に着目し、学校の創設を提案したりするなど、案は多岐に渡ったが、いずれも史実に基づくものとなった。

6

おわりに

生徒に振り返りを書かせる前に、史実との確認をして教師は生徒発表の価値付けを行う。時代背景や史実に基づいた立案の重要性と、いつの時代においても1) 情報を得てその活用をすること、2) 土地の特色、他地域、海外とのつながりを意識すること、3) 付加価値を付ける

ことの重要性に「不易」を感じる生徒がいた。さらに、「流行」をとらえたり、創出したりすることの重要性について気付く生徒もいた。また、授業実践後の生徒の振り返りの一部を以下に紹介する（表6）。

表6 生徒の振り返り（一部抜粋）

- ・八王子という町が昔は全国のあちこちとつながっていたと考えると不思議な気分になった。
- ・鑓水商人の没落を考えることで、時代の流れを見て考えること、情報を得ることは大切なのだと知ることができた。自分では考えることのできない角度からの意見を聞くことで驚きをもち、新しいことを知って自分の視野を広げることができたと思う。
- ・歴史の授業という、自分とは関係のない遠い所の話だと思っていたが、今回の授業を通して、八王子にもたくさんのヒトとモノが動いた大きな歴史が存在することを学んだ。先人たちの失敗や成功を自分たちが未来へつないでいけるようにしたい。
- ・今回は鑓水商人を題材とし過去を振り返って救済策を考えたが、どのグループもキーワードにしていた「時代変化」というのは、これからの社会でも絶え間なく起こるものである。救済策を考えることは、これから先の私たちの人生のヒントになったのかもしれない。

これから子どもたちが生きる未来は、今まで以上に予測がつかない時代となる。生涯に渡りみずから学び、よりよい選択をし、それにより「持続可能な社会の創り手」となってもらいたい。本授業実践が、生徒にとって少しでもよりよく生きるための一助となることを願う。

〈注〉

- ※1 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった言葉であり、より「予測困難で不確実、複雑で曖昧」な時代になることを意味する言葉。
- ※2 FLIT 東京大学大学院情報学環・反転学習社会連携講座

<https://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/archives/flit/about/>

〈主要参考文献等〉

- ・一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREFウェブサイト <https://ni-coref.or.jp/archives/5515>
- ・馬場喜信（2001）『浜街道「絹の道」のはなし』かたくら書店
- ・シルク博物館（2009）『シルク博物館 資料集 5 ヨコハマ開港とシルク』シルク博物館

帝国書院のWebサイトに、ワークシートを掲載いたします。





公民

映画『シン・ゴジラ』をきっかけに考える 立法権と行政権の関係に関する授業

東京都 筑波大学附属中学校 教諭 渡辺 裕一

1 はじめに

本稿で紹介する授業実践例は、『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）p.81～82の「3 内閣の役割としくみ」に関する学習内容を、筆者の過去の実践を基に再構成したものである。

平成29年度版の学習指導要領解説では、「法や政治に関する内容の学習においては、単に法が規定している内容や政治制度についての理解で終わることなく」、なぜその規定が設けられたか趣旨を理解させることの重要性が述べられている。しかし、立法権や行政権に関する学習では、「なぜ」を問う発問を設定することが難しいと感じている。それは、「なぜ」という問いを考えようとしてみても、こう決まっているからとしか言えないような性質のもの（例えば、「なぜ衆議院議員の任期は四年なのか？」）や、問いが難しすぎるもの（例えば、「なぜ日本は議院内閣制を採用しているのか？」）になってしまいがちだからである。また、教育学者の吉村功太郎は、現在の社会科の授業の多くは、「社会的事象（社会の出来事、理念や法、制度やしくみ等）を学習内容の中心として扱い、そこから派生しているはずの社会問題を軽視する傾向がある」ことを指摘しているが、立法権や行政権の授業においては、（教科書で取り上げられている「議員立法の少なさ」のような）「社会問題」を見つけることが容易ではない。そのため、教員が一方的に制度やしくみを説明することに終始してしまい、その結果、生徒が学習に興味を持てなくなってしまう授業が、筆者の経験上とても多かった。

こうした点を踏まえて、本稿では、試行錯誤を重ねながら実践した立法権と行政権の関係（執政制度）に関する授業の一端を紹介する。

2 本時の授業について ～民主主義の危機の中で～

本時において取り上げた「社会問題」は、「民主主義が世界規模で後退していること」である。スウェーデンの独立調査機関のV-Dem研究所は、国や地域の政治体制を四つに分類して分析しているが（図1）、近年の傾向として、「閉鎖型権威主義」が増加していることに加えて、①「選挙型民主主義」と「選挙型権威主義」が拡大していること、そして②「自由民主主義」が減少していることを問題視している。

これを受けて、政治学者の川中豪は、過去のように「選挙が停止されることはないが、法の支配や市民的自由が制約を受けるのが近年の民主主義の後退の特徴である」とし、政府の運営を通じて社会に大きな影響を与える執政府の長（大統領や首相）の権力を「抑制する制度が徐々にないがしろにされている」と分析し、次のように語っている。

権威的 ↑ ↓ 民主的	閉鎖型権威主義 国民に政府の最高責任者を選ぶ権利がない	(例) ・中国 ・ミャンマー
	選挙型権威主義 選挙が自由・公正に保たれていない	・ロシア ・インド
	選挙型民主主義 選挙が自由・公正に保たれている	・メキシコ ・南アフリカ共和国
	自由民主主義 行政府が立法府と裁判所によって制約される	・日本 ・アメリカ合衆国

図1 政治体制の四分類
（『日本経済新聞電子版』2022年8月22日付より作成）

選挙で勝つことが民主的な正統性の唯一の根拠であると主張して、選挙を経ない司法や選挙で権力を獲得するに至らなかった野党をないがしろにする。さらには、ハンガリーやトルコのように、憲法を改正して司法の独立性を奪うこともある。選挙に勝ちさえすれば自由に振る舞えるという政治体制は委任型民主主義とも呼ばれ、近年の民主主義の後退によく見られる。(川中、2022年)

では、執政府の権力を抑制する制度とは何か。その一つが、法治主義である。政治学者の大山礼子は、国会の権能を四つ（①国民代表機能、②立法機能、③審議機能、④行政府監視機能）にまとめているが、中でも④の行政府監視機能の重要性を以下のように説いている。

国会を「唯一の立法機関」と定義した日本国憲法の規定からも推測できるように、議会の任務の中心は立法活動にあるとみなされ、行政府監視機能はどちらかというと従属的な、あるいは派生的な機能と考えられてきたのではないだろうか。

しかし、歴史をふりかえってみると、議会はそもそも主権者である君主の権限行使（とくに課税権の行使）に同意を与えるための機関として誕生したといわれる。議会は立法機関であるよりもさらに、君主および政府の行動を監視し、統制するための機関だったのである。(大山、2003年)

そこで、「なぜ議会が必要なのか」、「なぜ立法機関が行政機関を統制することが必要なのか」と問うような授業が大切になってくるだろう。

しかし、立法機関が行政機関を統制していることを生徒に理解させることはなかなか難しい。元社会科（公民科）教員の吉田俊弘は、「高校生や大学生に聞いてみると、権力分立を『分立』というレベルでとらえ、立法・行政・司法に関わる専門的な知識を持った人々に各々の権力の運営をゆだねるようなイメージ』を持っているが、権力が相互に『抑制・均衡』し合うというもう一つの機能については、『実際に権力相互の『抑制』がどのように行われ『均衡』しているのか、その姿を具体的に理解できている人は少ないように思います』と述べている。

理解を難しくしている原因の一つが、議院内閣制にある。なぜなら大統領制は、権力「分立」を明確に志向しているのに対し、議院内閣制は、

立法権と行政権の「分立」というより「融合」を志向しているからである。なお、政治学者の蒔田純は、政治学は議院内閣制を立法権と行政権の「融合」でとらえるのに対し、憲法学は立法権と行政権の「分立」と「抑制・均衡」を強調する傾向にあるとしたうえで、中学校社会科の公民的分野は憲法学の影響が大きい（つまり、権力「分立」を強調して理解させる）という興味深い分析をしている。これらの点を意識して教材化したのが、以下の実践である。

3 授業の展開

(1) 導入

まず、導入で映画『シン・ゴジラ』の前半における二つの場面を見せる。一つ目は、首相官邸において、内閣総理大臣・閣僚・与党の政治家・官僚たちがゴジラへの対応を協議しているシーンである。この部分は、元内閣官房長官の枝野幸男が「有事の対応として、政治家や官僚の動き方に関しては大筋では間違っていない」とおらず、「リアル」だと評価している場面である。二つ目は、超高層マンション群が立ち並ぶ市街地（武蔵小杉駅周辺）の中で自衛隊がゴジラを攻撃するシーンである。これらの場面を見せた後で、教科書p.81の「国会が定めた法律や予算などに基づき、国民のために国の立場から仕事を行うことを行政といいます」という部分を読み、「行政」のイメージを生徒に持ってもらおう。

(2) 展開①

そして、以下の発問を行う。

元防衛大臣で自由民主党所属の石破茂は、自身のブログで、「自衛隊がゴジラを攻撃したのはリアルじゃない」という趣旨の文章（注：実際の文章は「何故ゴジラの襲来に対して自衛隊に防衛出動が下令されるのか、どうにも理解が出来ない」というものである）を書いています。その理由について、ワークシートにある法律（自衛隊法）を参考にして考えてみよう。

生徒はこの発問に対し、ワークシートに記入（まずは自分一人で考え、そのうえでペアの人と相談しながら答えを導き出す）したうえで、

勤務校で使用している授業支援ツール「ロイロノート・スクール」に自分の言葉でまとめた答えを提出する（図2）。この一連の流れは、教育学者の溝上慎一の言う、「個－協働－個」の学習サイクルが重要という指摘を踏まえたものである（『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』東信堂、2018年）。

その後、生徒がロイロノートに提出した回答を紹介しながら、以下の説明をしていく。

巨大不明生物（ゴジラ）に対して想定可能な自衛隊出動の根拠は、①「防衛出動」（第76条）、②「治安出動」（第78条）、③「災害派遣」（第83条）の三つである。そして、①は外国からの武力攻撃の場合であり、②はテロリストなどの犯罪者に対峙する場合であるため、今回のゴジラ襲来については③「災害派遣」のための出動と考えるほかなさそうである。しかし、自衛隊法という法律では、自衛隊が武器を使用できる場合を、①（または②）の場合に限定している。つまり今回の事例において、自衛隊はゴジラに対して武器を使用できないのである。

そして、市街地の中で自衛隊がゴジラを攻撃したシーンを振り返り、政府（行政権）は、国民の生命・自由・財産などを守ってくれる存在であるとともに、国民の生命・自由・財産などを侵害してしまう可能性を持つ存在であることを指摘する。そのことから、歴史上、政府（行

政権）が活動する場合には必ず、選挙を通じて選ばれた「国民の代表」による議会（立法権）の制定した法律が根拠として必要だという原則（法治主義、法律による行政の原理）が生まれたことを説明し、教科書p.68の記述（「国会が法律によって国や地方公共団体の行うべきことや行ってはならないことを定め……ることで初めて、国民の自由や権利を守」ることが可能）を確認する。

（3）展開②

法治主義に関する説明をしたうえで、以下の発問を行う。

もし大河内首相（作中での役名）が「大河内大統領」であったならば、ゴジラ対応で強いリーダーシップを発揮できたと思う？

ここで、教科書p.82の図（図3）を使いながら「議院内閣制」や「大統領制」を簡単に説明する。そして、生徒は問いに対して、①大統領が国民の選挙で選出されること（選挙人を選ぶ間接選挙であるが、実態は直接選挙）、②アメリカやロシアなどの「強い大統領」をイメージすることから、大統領のほうが首相よりも強い権限を持っており、リーダーシップを発揮しそうだ予想する。それに対して教員が、「大

×											
ゴジラがリアルじゃない理由											
無記名 回答を隠す 回答を共有 一括返却											
終了											
編集 コピー 使う 画面配信											
「内閣総理大臣は、日本に対する外国からの武力攻撃が発生した場合」とあるのに、外国からではなく、ゴジラという巨大生物に対して、内閣総理大臣に判断をゆだねているから。			なぜゴジラがリアルではないのか 自衛隊が出動できるのは、外国からの武力攻撃やテロ、犯罪行為、災害などで害獣の被害の時は書いていないから。			自衛隊を使えるのは他国からの攻撃の防衛のみ（のはず） →ゴジラって他国からの攻撃？？ →否！ゴジラはただの生物（害獣？）だから			自衛隊が派遣される場合、日本に対する外国からの武力攻撃が発生した場合なので、ゴジラは、外国からの武力攻撃ではないから。		
1			2			3			4		
自衛隊法を参考すると、 ・ 外国からの武力攻撃→× ・ 緊急事態→○しかし劇中でゴジラは災害ではなく生物と言及されている→×？ ・ 災害→× 以上から現行法では出動できないと考えられる。			まず、ゴジラのような国に危害をもたらす生物に対し、自衛隊に出動を命じられることが、自衛隊法に明示されていない。第78条には、緊急事態に際して、とあるが、かっこがきで補足されていることによって、ゴジラがこのケースに当てはまらないことが確実になる。これらの理由から、ゴジラに対する自衛隊の出動命令は、法律に定められていないため、リアリティがないといえる。			警察がいる(動ける状況にある)のにも関わらず避難誘導や私有地への無許可での立ち入りをしている。(第94条より) ほかの手段を検討せずに武力行使している。			第76条の場合、ゴジラは外国からの物ではないと考えられるし、第78条と第83条だと、セリフの中にあつたように「ゴジラは台風、○○のように自然災害ではない」的なセリフがあつたため、災害ではないから行使出来ない。87、88、94は使えない。89はゴジラは現行犯ではないから行使できない		
5			6			7			8		
なぜリアルじゃないのか ゴジラは外国からの武力攻撃でもテロ行為でも人命財産の保護の必要はないから。 ゴジラを退治するのにあたって武器を使用するのには、ゴジラは低級したり遠慮したりしているわけではないから、自衛隊の出動命令などは警察がいなくてもいい場合のみだが、警察はいないから。			・ 外国からの武力攻撃ではない ・ テロ、災害発生時の混乱に乗じた犯罪行為ではない ・ 現行犯が逃走していないので武器が使えない			第76条より内閣総理大臣は、日本に対する外国からの武力攻撃が発生した場合、自衛隊に出動を命じることが出来る」とあるがゴジラは外国からの攻撃ではないから			住宅地でミサイル打ったから自衛隊は市民の安全を守ったりするためにいる人たちだから		
9			10			11			12		

図2 ロイロノートに提出された生徒の回答（一部）

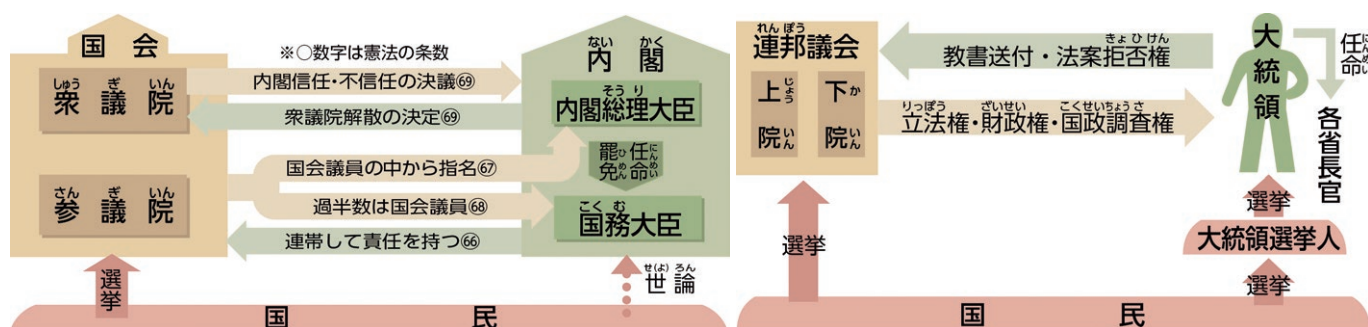


図3 議院内閣制のしくみ（左）とアメリカの大統領制のしくみ（右）『社会科 中学生の公民』p.82

統領は法律（案）を議会に提出することができる？」、「日本で法律案をおもに作っている機関はどこ？教科書p.79～80の図を見ながら考えてみよう」と発問する。ここで生徒は、（首相を含む）内閣には議会（国会）に法律案を提出できるという（大統領にはない）強力な権限があること、議会（国会）の多数派（与党）が内閣を支えているために首相は政策を容易に実行できることを理解する。これを踏まえ、かつてイギリスでは、「総選挙で勝利さえすれば、次の総選挙で国民の審判が下るまで、首相の思いのままに動かせる政治が『選挙による独裁』（elected dictatorship）であると批判された」（大山、2018）ということを説明し、最後に以下の発問を行う。

国会の多数派が政府を形成する議院内閣制を採用する日本において、立法権は行政権を統制できているのだろうか？国会が政府を統制するためにはどんな制度が必要だろうか？

この発問に対し、生徒は再びワークシートに考えを記入し、ロイロノートに自分の言葉でまとめた答えを提出し、この授業を終える。なお、次の授業の冒頭において、ロイロノートに提出された回答を共有し、内閣と国会との関係が「内閣vs国会」ではなく、「内閣・与党（多数党）vs野党（少数党）」であることを確認し、野党による行政統制を説明していく。

4 おわりに

映画から政治制度を考えることが生徒にとっては新鮮だったのか、「1年間の授業の中で、

この授業がもっとも印象に残っている」といった感想を持つ生徒が複数いた。その点では、生徒の興味関心を引き出しながら、立法権や行政権の授業を展開できたといえるかもしれない。

一方、生徒の中には、「ゴジラ襲来に対して指をくわえて見ているよりは、映画のように超法規的な行動をとることもやむを得ない」という感想も多くあった。もちろん、その意見も「正解」ではあるが、なぜ法治主義の原理を守ることが（長期的にみると）自分たちの自由や権利を守ることにつながるのかを理解させる場面がもう少し必要だったのかもしれない。その点は、今後の課題としたい。

〈参考文献〉

- ・大山礼子『国会学入門（第2版）』三省堂、2003年
- ・大山礼子『政治を再建する、いくつかの方法ー政治制度から考える』日本経済新聞出版、2018年
- ・川中豪「世界の民主主義 現況と課題」(『Voters』71号、pp.4-6、公益財団法人 明るい選挙推進協会、2022年)
- ・駒村圭吾・待鳥聡史編『統治のデザイナー日本の「憲法改正」を考えるために』弘文堂、2020年
- ・日経ビジネス編『「シン・ゴジラ」私はこう読む』（電子書籍）日経BP社、2016年
- ・蒔田純『政治をいかに教えるかー知識と行動をつなぐ主権者教育ー』弘前大学出版会、2019年
- ・横田明美「自衛隊、防衛出動 自衛隊出動の根拠法規を考える」(『ホビージャパンMOOK 789 シン・ゴジラ政府・自衛隊事態対処研究』pp.18-22、ホビージャパン、2017年)
- ・横大道聡・吉田俊弘『憲法のリテラシーー問いから始める15のレッスン』有斐閣、2022年
- ・吉村功太郎「民主主義社会の主体的な担い手を育てる」(唐木清志編『「公民的資質」とは何かー社会科の過去・現在・未来を探るー』東洋館出版社、2016年)

帝国書院のWebサイトに、ワークシートを掲載いたします。



農機具の変遷 —「千歯こき」を中心に—

倉吉博物館 主任学芸員 関本 明子

新田開発と農業技術の発展

戦乱の世が終わり江戸時代に入ると、急速に人口が増加する。17世紀初頭1200万人余りだった人口は約100年の間に約2.5倍の3000万人以上となった。江戸幕府や大名は人口増加に対応するため、耕作地を増やす新田開発を積極的に行った。

耕地面積の拡大とともに、農業技術の進歩により生産力も上昇する。備中鍬と呼ばれる刃が分かれた鍬は、それまでの平鍬より深く土を耕すことが可能になった。このような作業効率のよい農具の登場に加え、干鰯など肥料や品種の改良、農業技術を記す農書の普及などが後押しとなり、米の生産量は飛躍的に増大する。

新しい農具—千歯こき—

米の収穫後の作業においても新たな農具が普及した。中国から伝わった唐箕は、内部の羽根車を手動で回して風を起し、実の詰まった米と塵やごみを選別する。また、稲穂から稲を分離する脱穀には「千歯こき」が用いられた。

千歯こきは、江戸時代中期に泉州堺（大阪府）で考案されたと伝わる。台木に竹や鉄製の歯（穂）が17～23本程度取り付けられ、刈り取った稲穂を櫛状の歯に通して籾を落とす。千歯以前の脱穀作業は、竹管

を紐でつないだこき箸・こき管で籾をしごき取る方法であったが、千歯こきの登場によって作業効率は2～3倍に向上し、全国各地に広く普及した。

生産地は若狭の早瀬（福井県）のほか諏訪（長野県）、倉吉（鳥取県）が知られる。なかでも最盛期の大正初めには年間約9万5千挺を出荷し、日本最大級の生産地であった倉吉の千歯こきについて紹介する。

倉吉の千歯こき

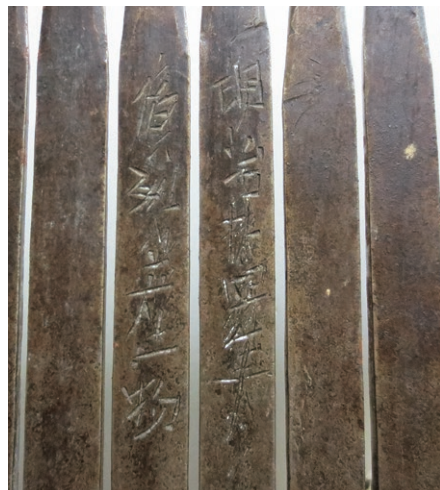
鳥取県は中国山地で産出される良質な砂鉄を原料とするたたら製鉄が盛んであった。国宝「童子切」を作刀した平安時代の刀工・大原安綱は伯耆国（鳥取県中西部）の人であり、この地において鍛冶は古くから重要な産業の一つであった。

倉吉で千歯製造が始まった時期を示す資料はなく伝承だけであったが、近年の調査の中で、1889（明治22）年『官報』掲載の「倉吉稲扱製造景況」という記事の存在が明らかになった（横浜市歴史博物館図録『千歯扱き』・2013年）。この記事では、倉吉での創業は安永年間（1772～81）に堺の稲こきを模倣したことに始まり、その後、1838（天保9）年に焼入れに改良を加えたことで全国無比の評判を得るようになった、と伝える。

ここでいう改良とは、歯の焼入れの際に、鮎のウルカ（内臓などの塩漬け、または塩辛のようなもの）に糠、膠、塩、硝石を調合した薬を塗って仕上げる倉吉独自の製作技術で、「伽羅鋼」と呼ぶ。この特殊な焼入れにより安価な軟鉄に弾性を持たせ、優れた製品を大量に仕上げるのが可能となった。倉吉産の千歯の台



「無類飛切伽羅鋼請合」の墨書が残されている台木（倉吉博物館所蔵）



歯に刻まれた製造年（右の行「明治拾四年」）と製造地（「伯州産物」）（倉吉博物館所蔵）

木には独特な筆文字で「無類飛切伽羅鋼請合」と記されており、これは「他に類をみない飛び切りの伽羅鋼」を意味する、一種ブランドロゴのようなものであった。

千歯こきの普及—修理と行商—

倉吉の千歯こきが全国に普及した要因として、鍛冶職人が全国各地に出向き、製品の販売だけでなく古い千歯の下取りや、折れたり曲がったりした歯の修繕を行ったことが挙げられる。

元千歯鍛冶の家に古い行商日記が保管されていた。小さな帳面には1880（明治13）年に長崎県の五島列島、翌年は青森県、翌々年は岩手県へ、いずれも半年にわたる長い旅の行程が記されている。岩手県には千歯鍛冶4人が共に出向いていた。一行の旅は拠点を設け、そこから各人が別々の場所へ出掛けて販売・修理を行い、しばらくするとまた別の拠点へと移動する。修理に必要な道具類、なにかと荷がかさばる行商の旅も皆で協力して行っていたことが分かる。また、行商

先の土地に定住し、当地で千歯こきを製造販売する職人も現れた。こうして「倉吉の千歯こき」は全国各地に広がっていった。

回転式足踏脱穀機の登場—千歯こきの衰退—

明治末年、自転車のスポークに稲穂が絡まり、ばらばらと飛び散る光景にヒントを得た回転式足踏脱穀機が発明される。新しい農具の登場により千歯こきの需要は急速に下がり、大正～昭和初期には製造を終了するが、千歯のほうが種籾を採種するのに適していたことから重宝され、その後も長く使用されていたようである。

千歯こきは農具には珍しく、製造元を示す墨書や焼印が台木に、歯には年号や製作者名が刻まれているものが多い。今後、訪れた博物館で展示されている千歯こきをご覧になった際は、その点もぜひ注目していただきたい。来歴を知る手掛かりがきっと見付かることだろう。



倉吉の千歯こき（大正7年製作）〈倉吉博物館所蔵〉 千歯こきは台木の状態（p.28写真左）で販売され、使用する際、脚は購入者が調達した。そのため、脚に地域性が出てくる。倉吉の千歯こきは、前に板が付いているのが特徴だ。脱穀した籾が板に当たり、後に飛び散らず、前にまとめて落ちるしくみになっている。

帝国書院ウェブサイト
中学校社会科Webが
パワーアップしました！

Teikoku LABO

学習者向けコンテンツ



↑会員登録は
こちらから



↑Teikoku LABOは
こちらから(会員限定)



“Teikoku LABO”とは…

Teikoku LABOは、“令和の日本型学校教育”を見据えた
学習者向けコンテンツの研究所です。

本サイトでは、現在、研究開発している社会科に特化した
学習者向けコンテンツを公開しています。

“生徒が学習者用端末を活用して主体的に活動する授業スタイル”を
想像しながらコンテンツをご体験ください！

Teikoku LABO学習者向けコンテンツは、帝国書院ウェブサ
イトトップページの上記スライダー、または下記のバナー
からTeikoku LABOにお進みください。または、左上のQR
コードからご覧ください。

- Teikoku LABOは「学校の先生」限定サイトとなります。
ご利用の際は、事前に帝国書
院Webサイトの会員登録を
お願いします。
- 閲覧は、PC・タブレット推奨。



注目！

超教科書の 学習者向け新機能

新機能の「学びコネクト」「ま
とめも」「超紙面」を活用して
デジタル教科書内ワンストップ
で地図帳・地理・歴史・公
民の各分野の学びを連携さ
せ、生徒の“主体的・対話的
で深い学び”を実現する
ことができます。



デジタル教科書・教材ビューア

超教科書の学習者向け新機能
デジタル問題集 mana.think@

注目！

主題図コンテンツ

『中学校社会科地図』に収録
の主題図について、「分ける」
「比べる」「重ねる」の三つ
の手法を使い思考力・判断
力を養うツールを研究開発
しています。こちらでは、『楽
しく学ぶ 小学生の地図
帳』の主題図で体験が
できます。



地図・地理

主題図コンテンツ
写真で発見！世界の気候
レイヤー切り替え

and more…

注目！

タイムトラベル 名探偵！

『社会科 中学生の歴史』に
収録されているタイムトラ
ベルを3D復元。紙の教科
書では捉えきれない各時代
の特徴を、「名探偵」にな
ってとらえることができ、生
徒の探究を促します。



歴史

タイムトラベル名探偵！

注目！

ぱんSim

～パン屋さん経営大作戦～

『社会科 中学生の公民』収録「パ
ン屋を起業しよう」の続編的位
置付けの「ぱんSim～パン屋さん
経営大作戦～」は、パン屋の経
営者を疑似体験するシミュレ
ーションゲーム。企業や経営につ
いて楽しく学べ、経済単元の学
習が理解できるものを目
指しています。



公民

ぱんSim～パン屋さん経営大作戦～

※1 〈QRコード使用上の注意〉QRコードを読み取って表示されたサイトにアクセスした際には、別途通信料がかかる場合があります。リンクは予告なく変更・廃止することがあります。

※2 〈本誌掲載の他社商標について〉

- ・Google Forms、Jamboard、Google for Education、Google ClassroomはGoogle LLCの商標または登録商標です。
- ・QRコードは、株式会社デンソーウェーブの商標または登録商標です。
- ・その他の会社名および製品名・サービス名・ロゴマークは各社の商号、商標または登録商標です。

(イラスト・写真提供：Cynet Photo、PIXTA)

中学校社会科のしおり

2024年度前期号 No.58

2024年4月12日発行 ©Teikoku-Shoin Co.,Ltd.2024

発行所 東京都千代田区神田神保町3-29(〒101-0051)

株式会社 帝国書院

発行人 佐藤 清

電 話 03-3262-4795(代)

<https://www.teikokushoin.co.jp/>

編集部よりお知らせ

より先生方のお役に立てる内容をお届けするため、ぜひアン
ケートでご意見・ご感想をお寄せください。右のQRコード、ま
たは下記からアクセスしてご回答いただけますと幸いです(今
号よりWebアンケートのみになりました)。



〈グーグルアンケートフォーム〉

<https://forms.gle/ZBPG7vnJMM6edCPf9>

教授用資料